

平成27年7月臨時教育委員会会議

1. 日 時

平成27年7月27日（月）午前9時30分～午後4時30分

2. 場 所

河内長野市役所7階 行政委員会室

3. 出席委員

和田教育長、澤田教育長職務代理者、柴委員、阪谷委員、嘉名委員

4. 会議録署名委員

澤田教育長職務代理者、柴委員

5. 出席者

(1) 事務局

中尾教育推進部長、橋本生涯学習部長、西田教育推進部理事、森本学校教育課長、小滝学校教育課参事、木村学校教育課主幹、宮本学校教育課主幹、小池学校教育課主幹、生田学校教育課主幹、東尾学校教育課主幹、坂田学校教育課主幹、藤林教育総務課長、大谷教育総務課長補佐

(2) その他

河内長野市立中学校教科用図書選定委員会

岡本委員長、岸委員、松本委員、岡田委員、林委員、三並委員

6. 会議要録

開 会

和田教育長

ただいまから、平成28年度使用小中学校使用教科用図書の採択にかかる臨時教育委員会を開会します。

(1) 署名委員の指名

和田教育長

今回の会議録の署名は、澤田教育長職務代理者、柴委員にお願いいたします。

澤田教育長職務代理者、柴委員

わかりました。

(2) 議事 (要旨)

和田教育長

それでは、平成28年度使用小中学校教科用図書採択に関わる臨時教育委員会を開会させていただきます。

議案第28号「平成28年度使用小中学校教科用図書採択及び学校教育法附則第9条に規定する一般図書の給付について」であります。

なお、本件の採択につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第23条6項に基づきまして、教科書等の取扱いの権限が教育委員会に有することを確認しておきたいと思っております。

それでは議案書の方ですが、はじめに事務局より説明があります。

森本学校教育課長

それでは、議案第28号「平成28年度小中学校使用教科用図書採択及び学校教育法附則第9条に規定する一般図書の給付について」説明いたします。

本件につきましては、審議いただく事柄を分けると大きく3つに分かれると考えますので、審議いただく順番を次のようにしていただけたらと思います。

1つ目は、平成28年度において河内長野市立小中学校に設置されている特別支援学級に在籍する児童生徒に給付する教科用図書についてです。2つ目は、平成28年度の小学校で使用する教科用図書の採択について、そして、3つ目は、平成28年度の中学校で使用する教科用図書の採択についてです。よろしく申し上げます。

和田教育長

ただ今、事務局より審議の順番について提案がございましたが、提案どおりでよろしいでしょうか。

(委員より異議なし)

和田教育長

承認いただきましたので、まず一つ目の、市立小中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒に給付する教科用図書について審議いたしたいと思います。

まず、事務局から説明願います。

森本学校教育課長

(議案書、議案説明資料、別冊資料に基づき説明)

(説明趣旨)

「平成28年度において河内長野市立小中学校に設置されている支援学級に在籍している児童・生徒については、従来どおり、拡大教科書を除き、学校教育法附則第9条に規定する一般図書の給付は行わず、当該学年用の検定教科書を給付する。」

以上につきまして、ご審議お願いいたします。

和田教育長

この件につきまして、何かご質問などありませんか。

嘉名委員

なぜ附則第9条に規定する一般図書を給付せずに、当該学年の検定教科書を給付するのが適切だと判断したのですか。

森本学校教育課長

別冊の議案第28号関係として配布しております「平成28年度使用教科用図書採択資料」の1ページをご覧ください。下の段の(資料2)学校教育法附則第9条にございますように、特別支援学級に在籍する子どもたちに、文部科学大臣の検定を経た教科用図書又は文部科学省が著作の名義を有する教科用図書以外の一般図書を採択することは可能です。

しかし、検定教科書と附則第9条によって採択した一般図書の両方は給付できませんので、採択権のある市教育委員会はどちらか一方を採択することになります。

検定教科書に代わる附則第9条本を採択する場合は、一般図書が特別支援学級に在籍する個々の子どもの教育指導計画に沿った教科用図書として適切かどうか慎重に判断しなければなりません。

また、「みんなと同じ教科書を給付して欲しい」という保護者の願いもございますので、教育委員会からは、検定教科書を配布した上で、学校に割り当てられている図書購入の予算を活用して、子ども達に有用な一般図書を購入する方法をとっております。これまでも、各学校において、このような形で対応してまいりました。

したがって、学校教育法附則第9条の規定による一般図書の給付は行わず、当該学年用の検定教科書を給付することが妥当であると考えています。

嘉名委員

なるほど。わかりました。

和田教育長

他にこの件につきまして質問はありませんか。

ないようでしたら、議案どおりということによろしいでしょうか。

(委員より異議なしの声あり。)

和田教育長

質問がないようですので、議案第28号のうち、「学校教育法附則第9条に規定する一般図書の給付について」承認します。

次に、平成28年度小学校で使用する教科用図書の採択について、事務局より説明願います。

森本学校教育課長

(議案書、議案説明資料、別冊資料に基づき説明)

(説明趣旨)

平成28年度小学校使用教科用図書に関しましては、先ほどの別冊採択資料2ページの(資料3)「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条」、及び「同法施行令第14条第1項」をご覧ください。

同法令によりまして、義務教育諸学校において同一の教科用図書を採択する期間は、4年とすることになっております。

したがいまして、平成28年度の小学校使用教科用図書につきましては、平成26年度に採択し、平成27年度から使用している教科用図書と同一のものを採択することとなります。次の3ページに本年度使用している教科用図書を示しておりますので、平成28年度の小学校使用教科用図書につきましては、これと同一のものを採択することとなります。

ご審議をお願いいたします。

和田教育長

この件につきまして、何かご質問などありませんか。

(委員より質問なし)

和田教育長

質問がないようですので、議案第28号のうち「平成28年度使用小学校教科用図書採択について」承認します。

続きまして「平成28年度使用中学校教科用図書採択について」ご説明願います。

森本学校教育課長

それでは審議に入ります前に、本教育委員会が河内長野市中学校教科用図書選定委員会に諮問した答申が、すでに平成27年7月21日をもって選定委員長より教育長に手渡されましたことをご報告させていただきます。

その結果、教育委員の皆様のお手元には、教育長を通じて、すでに答申

および答申資料を配布させていただいております。ご審議よろしくお願いたします。

和田教育長

それでは、あらためまして、選定委員長をはじめ選定委員会の皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました。

なお、引き続き審議に入りますが、審議に関して各種目ごとに選定委員の方に入室していただき、答申の報告をしていただきます。その後、参考意見を聞かせていただき、各担当種目の採択が決定いたしましたら退室していただく予定です。

尚、教育委員の皆様には、自宅に教科書を持ち帰り調べていただいたことをもとに、本日の報告に対して、ご質問いただければと思います。それでは審議に入ります。

では、社会科・歴史的分野について審議に入ります。選定委員から歴史について報告してください。

岸選定委員

(別冊資料に基づき説明)

中学校教科用図書、社会科・歴史的分野の調査結果について報告いたします。調査対象は、東京書籍、教育出版社、清水書院、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社でございます。各調査の観点ごとに、特長的な内容について報告します。

まず、Bの(1)の、伝統文化に関することについて、東京書籍、帝国書院、日本文教出版、育鵬社では、現代の私たちの生活とかかわりの深い伝統文化を意識させる記述が見られますが、帝国書院においては、261ページのように、世界に誇れる日本の文化に対して自覚を持つ大切さに気付かせる記述がみられます。

Bの(3)では、帝国書院において、171ページのように、全体を通じて人物写真や肖像画、様子を表す写真などの掲載数が最も多く、生徒が様子をイメージしやすく、理解することができるように配慮されています。

Bの(4)では、東京書籍、教育出版社、帝国書院、日本文教出版において、テーマに若干の違いはあるものの、特設のページでアイヌや沖縄の人々のこと、全国水平社のことなどを掲載しており、特に人権について注目させるような扱いがされています。今見ていただいているのは教育出版社の171ページです。また、育鵬社では、例えば204ページのように、特に女性を取り上げたコラムを設け、それぞれの時代の女性のリアルな姿を紹介しています。東京書籍にも同様のコラムがあります

Cの(3)では、東京書籍において、62、63ページのように、各章のはじめに前章から連続した年表を掲載することで、各時代を切り離すのではなく連続しているものであるという、時代のつながりを意識させるよう配慮されています。

Dの(1)では、日本文教出版の60ページのように、各編の導入部分で「地図で見る世界の動き」を設け、ほぼ同時代に、世界で何が起きているか知ることができるようになっています。これは、育鵬社にも同様のページがあります。また、自由社では、28、29ページのコラム「もっと知りたい」のように、一つのテーマにおいて、本文の内容から踏み込んで生徒の興味関心をさらに呼び起こすよう工夫されています。日本文教出版のコラム「+α」も、これは35ページですが、より高度な内容の学習に発展させられるような工夫がされています。

Dの(2)では、東京書籍230ページから233ページの「私たち歴史探検隊」で、本市中学生が広島や長崎の修学旅行で行う活動を想起させ、フィールドワークの方法や聞き取り学習の方法について具体的に知ることができます。また、帝国書院6ページから11ページでは、調べ活動の方法からまとめ方、表現方法まで一括して数多く提示してあり、広がりのある学習ができるように配慮されています。同様のページは、東京書籍、自由社にもあります。

Dの(4)では、日本文教出版の各編末において、例えば57ページのように、「文字の変化」などと着目点を示して、各時代の特徴をまとめさせ、表現する力を育めるような工夫がされています。

Dの(5)では、いずれの教科書も学習の振り返りやまとめがきめ細かく入れられていますが、教育出版社では、例えば17ページのように、見

開きページの右下の「ふりかえる」で、ステップ1と2に分けて設問がわかりやすく書かれており、学習内容を定着させる工夫があります。このように振り返りの課題を2段階に分けて提示しているのは、ほかに帝国書院と日本文教出版がありますが、特に帝国書院では、例えば13ページのように、「確認しよう」の課題において、本文から抜き出させる指示をしており、基礎的基本的事項の習得に役立つものになっています。また、同じく帝国書院では、47ページ下のような、「〇〇時代を振り返って」の部分で、それぞれの時代の特徴を短い文章でまとめ、学習のふりかえりがしやすく配慮されています。

以上で調査報告を終わります。

和田教育長

この件につきまして、何かご質問などありませんか。

阪谷委員

こうやって見ると、やっぱり歴史の教科書はそれぞれの時代の文化に関連して、さまざまな文物が紹介されていますね。伝統文化を大切にすると、本市の重点と密接なつながりのある教科の一つです。この中に、河内長野に触れるものがあればなお良いのですが、どうでしたか。

岸選定委員

見たところ、河内長野市に関する文物の掲載はなかったように思います。楠木正成については、どの教科書にも名前は載っていました。

阪谷委員

そうですか、ふるさとのつながりという意味では、河内長野のことが少しでも載っていたら、よかったかと思います。

それはそうと、地域とのつながりという面で、何か特長的なものがありますか。

岸選定委員

はい、ここ近畿地方は古代より政治の中心地であったことが多く、さまざまな時代で、いわゆる畿内の様子について触れられています。それらとは違った形で取り上げられているのが、東京書籍、帝国書院、日本文教出版です。東京書籍では13ページからの調べ学習の手法を紹介するページで堺市の歴史を取り上げています。小学校で学習した伝統工芸品との関わりも見られます。帝国書院では、212、213ページで、明治期以降の大阪・神戸の発展の様子について取り上げています。ここでは、当時の生活の様子や都市の姿が豊富な写真で紹介されており、大変興味深いものとなっています。南海電鉄や甲子園球場のことなども掲載されていて、子どもたちは身近に感じるのではないのでしょうか。日本文教出版では、240、241ページのように、大阪大空襲について取り上げており、体験者の記録とともに、空襲後の町の様子や戦争遺跡も紹介しており、平和について深く考えさせる内容となっています。

柴委員

どれも身近に感じるテーマですね。生活に密着したという点では、帝国書院のテーマは我々大人でも興味があります。詳しい説明もありますし、つつい読みでしまいますね。宝塚の写真などは、今の姿と比べてしまいますね。

嘉名委員

私は、空襲と言えは何となく東京大空襲を連想してしまいます。そこをあえて大阪について取り上げた日本文教出版がいいと思いますね。手塚治虫のマンガや手記なども、戦時中の様子や人々の思いが伝わるいい教材だと思いますよ。

澤田委員

そうですね。ここに載っている戦災地図も、被害の様子がよくわかりますね。

嘉名委員

これら近現代の様子に関連したことなのですが、今回の検定では、社会科学の検定基準に、「近現代史で通説的な見解がない数字などはそのことを明示」など、新たな基準を追加していましたが、そのことがわかるような記述はどのようになされているのでしょうか。

岸選定委員

ご質問の内容につきまして、よく取り上げられるのが、1937年に起きたとされる、いわゆる「南京事件」ですが、取り扱いにつきまして、各社で若干の差があります。具体的には、本文中に「南京事件」と記載しているものが東京書籍、帝国書院、日本文教出版の3社です。例えば、これは日本文教出版ですが、228ページにこのようにカッコ付きで記載されています。先ほどの3社ともカッコ付きです。また、脚注のみに記載しているものが教育出版社と育鵬社です。一方、東京書籍と清水書院は「南京大虐殺」という言葉を、脚注ではありますが記しています。東京書籍の例では、220ページにこのように扱われています。

本文中の表現については、東京書籍と日本文教出版が、女性や子どもの被害に言及しているのに対し、帝国書院と教育出版社は多くの民間人とか、住民を巻き込んでといった表現を使っています。反対に、清水書院では、無差別に虐殺という言葉を用い、厳しい表現をしています。以上5社は、いずれも脚注でも触れています。一方、自由社と育鵬社は、本文では「南京を占領した」とだけ書かれています。なお、東京書籍、教育出版社、帝国書院、日本文教出版、育鵬社の5社は、脚注に「被害者の数など、全体像についてはさまざまな見解があり、調査研究が進められている」といった記述があります。例をあげますと、帝国書院では、220ページにこのように記されています。犠牲者の数については、明記されているところはありませんでした。

嘉名委員

なるほど、各社、少しずつ内容が違うわけですね。でも、この近現代史の部分については、特に世間の注目を集めていますよね。市民の方からや

団体さんからの意見も、このあたりについてのことが多いですし、例えばある会社の教科書の記載について、戦時下の国民生活の部分で、「戦争中、日本が朝鮮半島で行ったことが簡単に書かれている」とか、「日本軍が朝鮮・中国へ侵攻していったことと、国内の総動員体制とが同じように取り上げられている」としたうえで、被害と加害の部分をきちんと生徒に伝えていくべきであるというご意見があります。反対に、同じ会社の教科書を、「アジアの解放の理念」をきちんと書いているという見方をしている方もいますよね。それだけ関心が高いということなのでしょうが、このあたりの各社の記載については、どうなのでしょう。

岸選定委員

確かにたくさんのご意見をいただいています。各社の記載について、例えば、いわゆる「太平洋戦争」についての記述でも、「大東亜戦争」という、当時の政府の呼称の記載が、すべての会社で見られますが、取り扱いについては様々です。内容について言えば、「自存自衛」という言葉を使っているのは自由社と育鵬社だけですし、東南アジア諸国の解放を強調しているのもこの2社です。これは、育鵬社の234ページですが、このように「自存自衛」と本文にはっきりと記載されています。反対に、沖縄戦の住民犠牲に関して、集団自決への日本軍の関与を記載しているのは、そのほかの5社すべてです。特に、これは帝国書院の230、231ページですが、このように2ページにわたり特設ページを設けています。このあたりの認識や取り扱いの違いによって、意見が分かれるところではないかと思えます。

和田教育長

意見を読んでいると、自由社、育鵬社は、『正しい歴史認識を子どもたちに持たせることができる』という方もいれば、反対に、この2社は『正しい歴史認識を持たせることはできない』と言っている方もいるようです。このことからわかるように、歴史認識はいろいろあるということであり、国の教科書検定も採択事務においても、教科書の執筆者なり、出版社なりの歴史認識の是非を問うているのではないんです。

澤田委員

その通りですよ。歴史の学習で大事なものは、過去を学び、そこから学び取った事柄をもとに自らの生活を振り返り、未来のよりよい社会の形成に生かしていくことだと思います。また、学習指導要領の中の、『歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断する』力をつけることが大事なんじゃないですか。そのための判断材料としての教科書であるべきだし、将来、自分自身の歴史観を持てるように、さまざまな角度から物事を見つめ、考える力を、授業を通して育むことが重要だと思います。

柴委員

私もそう思います。一方的ではなく、『多面的・多角的』に物事をとらえることは、これからの社会を生き抜いていくためには、必ず必要な力だと思います。選定委員に聞きたいのですが、そういうものの見方や考え方をつけられるようなものはありますか。

岸選定委員

そうですね、例えば、人権について考える部分では、特設のページを設けたり、コラムで詳しく説明したりすることで、さまざまな角度から深く考えさせることができるという点では、アイヌや沖縄の人々のことや全国水平社運動のことなど、冒頭の説明でも述べた通りです。その点、帝国書院は、人権に関する特設ページをいくつか設けているとともに、例えば149ページのように、わざわざ『人権』というジャンルのコラムもたくさん設けていて、各時代での人権的な事柄について考えさせるよう工夫されています。

阪谷委員

そういえば、帝国書院の教科書には、いたるところにこのようなコラムがあったような気がします。

岸選定委員

実は、帝国書院の教科書は、コラムの取り扱い方に特長があります。他

社は、このコラムのところは、あまりジャンル分けしていなくて、読み進めていくうちに内容がわかるようになっているのですが、帝国書院のコラムは、はじめから何について書かれているかがわかるよう配慮されています。例をあげますと、先ほどの『人権』のコラム以外に、187ページの『自然環境』これですね。次に、201ページの『交流』、これです。そして217ページの『平和』、という感じです。このように、それぞれ今日的な課題と結びつき、深く考えさせられるような内容のものが、全編にわたって掲載されています。先ほど、『多面的・多角的』ということをおっしゃっていましたが、まさにさまざまな角度からその時代について迫ることができるように工夫されていると思います。

阪谷委員

これはわかりやすいですね。

岸選定委員

はい、私もそう思います。もう一つ付け加えるならば、帝国書院のコラムには『地域史』というものもあって、近隣で言うと、90ページの、堺の鉄砲に関する記述のように、それぞれの地域が歴史の中で果たした役割について気付くことができ、地域に誇りを持ち、郷土・国土への愛情を培うことができるという、学習指導要領の趣旨にも合い、深まりを持たせた学習活動につなげることができると思います。

和田教育長

わかりました。たくさんのご意見が出ましたが、ほかにご意見やご質問はありませんか。

柴委員

はい、ここ最近のニュースでは、「安保関連」の話題が世間をにぎわしており、自衛の解釈とともに、国際貢献がどうあるべきかという今日的な課題を考えさせられました。このような国際関係に関する記述はどうなっていますか。

岸選定委員

各社それほど差があるようには感じませんでした。現代的なトピックですし、大体教科書の最後の方に載っていますが、例えばPKOやODA、NGOなどについて、また、地球温暖化や持続可能な社会の形成などについて、さまざまな視点からの貢献について記載があります。しかし、国際関係については、むしろ公民の分野に関わるところが大きいのではないのでしょうか。

柴委員

そうですね、わかりました。今までの議論を聞いていると、帝国書院の話が多く取り上げられていますが、今、本市で使われているのは日本文教出版ですよ。この2社を比べて、明らかに帝国書院がいいという部分はあるのですか。

岸選定委員

そこは調査の段階でも考えたところですよ。例えば、前回採択時の決め手の一つになった、身近な地域である大阪の取り扱いについて見てみますと、ご質問のはじめのほうでも説明いたしましたが、今回は、東京書籍、帝国書院、日本文教出版に特長が見られました。この点について、前回採択時は、確かに日本文教出版は大阪について多く触れられていたと思います。しかし今回は、全体を通してみると明らかに日本文教出版は他社に比べて扱いの数が少ないです。大阪府の選定資料によりますと、多いのは、東京書籍、帝国書院です。内容の比較でも、例えば、近世の大阪について触れた部分では、日本文教出版では、蔵屋敷が立ち並ぶ商業の中心地としてしか捉えていないのに対し、帝国書院では、同様の部分で、121ページですが、両替商などの金融業の発展についても触れています。加えて、「説明しよう」の部分でも、大阪が商業の中心として発展した理由について考えさせるような問いかけをしています。

柴委員

なるほど、大阪についてより詳しく捉えさせる工夫があるということ

すね。よくわかりました。ではお聞きしますが、東京書籍と帝国書院の比較についてはどうですか。

岸選定委員

はい、この2社につきましては、資料の取り扱いで比較したいと思います。本文中に掲載されている図や表の総数については両社とも差はありませんでした。東京書籍については、例えば、168ページの「樺太・千島交換条約」のような文書を抜粋した資料は、東京書籍の方が多いです。また、巻末の索引に掲載されている人物数や事項数も非常に多いです。しかし、帝国書院については、冒頭の説明でもお話ししましたが、写真、絵、人物画像の数は全社の中で最も多いですし、地図、年表、グラフなどについても東京書籍に比べ、多く掲載されています。例えば、東京書籍182ページと、帝国書院184ページの資料を比べてみますと、先ごろ世界遺産に登録された、明治期の産業の様子が見えるようになっていますが、地図とグラフがすぐそばに掲載されており、官営工場などの分布と工業生産の変化を関連付けて考えさせる上では、帝国書院の方が優れていると言えます。地図やグラフが多いということは、このように読み取る、関連付ける、思考を深めるという学習につなげやすいということだと思います。思考を深めるという点においては、先ほどから申していますように、帝国書院のコラムの扱いには、他社には無い「良さ」があると考えます。現場の教員からも、帝国書院を支持する意見が多かったです。

柴委員

なるほど、そのような比較をしてもらえると、帝国書院の良さがさらによくわかりますね。ありがとうございます。

和田教育長

よろしいですか。多くの議論が出ましたが、採択に移りたいと思います。平成20年の学習指導要領改訂では、新しく「受け継がれてきた伝統や文化」・「時代の特色」が加えられましたが、多面的・多角的に物事を考えられるような配慮も大事に取り組むことは前回と同様です。日本文教出版が、

前回採択されたのは、身近な地域のことを詳しく取り上げていたからでしたが、今回は、東京書籍と帝国書院の扱いが多く、日本文教出版、自由社、育鵬社は、その半分ぐらいしか扱っていません。大阪などを取り扱っている地域性と地図、グラフや写真の取扱い方、多角的に捉えることができる配慮、また、現場の声からみても帝国書院がいいようですが、いかがですか。

委員一同

異議なし。

和田教育長

では、帝国書院を採択いたします。

次に、地図について審議に入ります。選定委員から地図について報告してください。

岸選定委員

(別冊資料に基づき説明)

はい、では中学校教科用図書、地図の調査結果について報告いたします。調査の対象となったのは、東京書籍、帝国書院の2社となります。

各調査の観点ごとに、特長のある内容について報告いたします。

Bの(1)では、両社ともに近畿地方の文化財の記載がありますが、東京書籍では、97、98ページのように、京都や奈良の文化財の分布がより多く、わかりやすく記載されています。帝国書院では、155ページのように昔の街並みや街道の様子がわかるように写真などが掲載され、本市の高野街道の様子と関連させられます。また、96ページのように、本市特産の「つまようじ」の工場の記号が記されていることは、生徒にとってはわが町を意識できるものであると言えます。

Bの(2)では、帝国書院の28ページ中央などにある「日本との結びつき」を示す資料は、日本との関係を軸にする点で、学習に効果的に活用できます。

Cの(3)では、東京書籍159ページから161ページで、世界の国々

で主に信仰されている宗教がわかりやすい記号で記載されていて、分布を視覚的に捉えることができます。一方帝国書院では、101ページのように、日本の各地方の自然・産業・暮らしについて、地図の周りにイラストを配置し、一目でとらえられるような工夫がされています。

Cの(4)では、東京書籍において、177・178ページに、事項別の索引が設定されており、歴史や公民など、他分野と関連した学習に活用しやすくなっています。

Dの(1)では、東京書籍の7ページのように、「ジャンプ」の指示に従ってページを参照することで発展的な学習をすることができます。また、帝国書院では、5ページのように地図帳の使い方の説明で、引き出し線を使って、地図中の記載が何を表しているか、わかりやすく説明しています。

Dの(3)では、東京書籍において、37・38ページのヨーロッパの鳥瞰図において、海底地形の様子も見ることができ、生徒の興味・関心を掻き立てるようなものになっています。帝国書院では、25・26ページのように陸地部分の地形の起伏や特徴がよくとらえられるように、立体的な表現がされています。

以上で、調査報告を終わります。

和田教育長

では、地図についてご質問願います。

阪谷委員

地図帳については、子どもたちが活用するにあたっては「見やすさ」が一番大切だと思います。この観点で2社を比較するといかがでしょうか。

岸選定委員

はい、たとえば、大阪府の50万分の1の拡大地図、東京書籍93・94ページと、帝国書院95・96ページを比較しながらご説明します。お手元で両方の地図を広げてお聞きいただくとわかりやすいと思います。

地図の中の情報量としては両社ともそれほど差は感じられません。しかし、見た感じの印象が違います。いかがでしょうか。

柴委員

そうですね、確かに帝国書院の方がはっきりと見やすい感じがします。東京書籍の方は、なんだかぼんやりしているような感じですね。

岸選定委員

はい、まず、陸地の高低差を表す「等高線」ですが、帝国書院は緑色の実線で表していますが、東京書籍には線そのものがありません。どちらも濃淡をつけて、高低差を表してはいますが、境目をはっきりさせると、その差がよりわかりやすくなります。

柴委員

確かにそうですね。でも、それだけではなくて、帝国書院の方が明るい感じがしますね。

岸選定委員

それは、色彩の差があるのだと思います。例えば、「市街地」を表す黄色ですが、両社ともおそらく黄色の印刷インクでむらなく着色されているのだと思います。これは主観かもしれませんが、帝国書院の方が明るく見える感じがします。また、平地の緑色は、これははっきりとした違いがありますが、「くさ色」という、特別色での印刷をしているため、より鮮やかに見える工夫がされています。そのため、文字が重なるところも、大変見やすくなっていて、全体が明るくなるのだと思います。

阪谷委員

なるほど、そのような違いがあるのですか、5色印刷だとコストも高くなるでしょうけど、見やすさにはかえられませんね。

和田教育長

見やすさとは別の観点でも見ていきましょうか。何か違いはありますか。

岸選定委員

はい、東京書籍は、帝国書院に比べて後ろの方の資料のページ数が多く、さまざまな角度からの学習展開ができます。また、11・12ページのように、写真の取り扱いが大きく巧みで、非常に興味を惹く工夫があると思います。一方、帝国書院は、83ページのように、「地図をみる目」を設け、地図から読み取れる、着目したい点を提示して、基本的な事項を確認させるような配慮があります。また、88ページのように、「やってみよう」を設けることによって、資料活用や地図を読み解く力を身につけ、発展的な活動につながるようにしています。

澤田委員

なるほど、地図を眺めるだけでなく、そこから何を読み取るかということに目を向けさせるようにしている感じがしますね。確かに工夫がされていると思います。

岸選定委員

はい、そう思います。

和田教育長

ほかに質問はございませんか。

嘉名委員

答申の中にも書いてあるのですが、この地図について、私はやや気になりました。帝国書院の31・32ページの地図なのですが、見た時、直ぐにはどこの地図かよく分からなかったものです。画面に映してもらえますか。

これは、ひっくり返してみると、見慣れた配置の日本地図になるんです。

阪谷委員

これはおもしろいですね。私たちはふだん、北が上の地図が当たり前のように思っていますが、これはタイトルにもあるように、大陸側から見

た日本ですよね。これを見ると、東アジアとの位置関係がよくわかりますね。昔の交易のルート、大陸や半島との関係性が見て取れる、いい資料じゃないですか。

澤田委員

ほう、このように見ると、確かに日本と大陸が近いですね。歴史の授業でぜひ取り上げたらいいですね。

岸選定委員

そうですね。

和田教育長

では、地図について採択してよろしいですか。地図の見やすさ、地図から読み取れることを導き出すような配慮、ひと工夫ある地図など、帝国書院の方が適当という意見が多いようですが、いかがでしょうか。

委員一同

異議なし。

和田教育長

では、地図については、帝国書院を採択いたします。

引き続き、外国語科について、審議を始めます。選定委員から報告してください。

岸選定委員

(別冊資料に基づき説明)

中学校教科用図書外国語科の選定結果について報告いたします。調査対象は東京書籍、開隆堂、学校図書、三省堂、教育出版社、光村図書の6社となります。では、各選定の調査ごとに、特に特長のある内容について報告いたします。

まず、Bの(4)についてですが、どの教科書も人権問題などに触れた

教材を取り入れています。その中でも、東京書籍3年34ページをご覧ください。フェアトレードについて扱っており、社会のしくみと人権について生徒にもわかりやすく理解できるよう工夫されています。また、同じく東京書籍2年96ページをご覧ください。視覚障がいのある主人公を中心に、その生い立ちから家族の思いや自尊感情について学ぶことができる題材が取り扱われています。一方、開隆堂3年の84ページをご覧ください。マララさんの国連でのスピーチを題材に取り扱っており、教育について深く考えるきっかけになる教材が取り上げられています。また、開隆堂2年の76ページをご覧ください。日本とトルコの歴史から、国際社会の中で両国が互いに認め合い、助け合う姿について取り上げられています。

次に、Cの(1)についてですが、開隆堂1年13ページをご覧ください。友だちにインタビューしてサインをもらうなど、小学校で取り組んできた外国語活動の学習内容と同じものからスタートできるように設定されています。また同じく開隆堂1年6ページをご覧ください。「場面に合わせて友だちや先生と大きな声でやりとりをしましょう。」とコミュニケーションの活動から始まるように設定されています。

続いてCの(4)についてです。三省堂2年76ページにおいて職業体験先に自己紹介の手紙を書く内容が取り扱われています。さらに、三省堂2年92ページでは、グラフの活用について説明文のリーディングを通して取り上げられています。

次に、Dの(2)について、三省堂2年64ページをご覧ください。好きな国についてのエッセイを書くために、調べたり、友だちと話し合ったりする多様な学習活動が設定されています。また、同じく三省堂1年124ページでは、自分にとって大切なものを紹介するために、アイディアマップを作成し、友だちとのインタビューやShow & Tellの原稿作成など、総合的な学習活動が設定されています。

次に、Dの(4)について、開隆堂2年の36ページから39ページをご覧ください。"My Project"では、年間3回4技能を関連づけながら、スピーキングやライティングなどの表現力を伸ばすように工夫されています。他の教科書でも、年間3~4回同じような学習が設定され

ています。開隆堂3年の3ページをご覧ください。各学年に「T r y（耳と口で覚えた表現を使って友だちとコミュニケーション活動を楽しみましょう。）」の設定があり、この部分が、耳と口で覚えた表現を使って友だちとコミュニケーション活動をするための課題であることを明確に表示しています。

次に、Dの(5)についてですが、開隆堂3年9ページをご覧ください。ページ番号付近に「音読」というマークがあり、本文を音読するごとに、色をぬれるような工夫があります。これは、全ての学年に共通して設定されています。

また、開隆堂1年の巻末ページをご覧ください。英語で「できるようになったこと」リストすなわちC a n－D o（キャンドウ）リストが全ての学年の巻末に設定されています。

C a n－D o（キャンドウ）リストは、三省堂1年巻末ページおよび教育出版社1年巻末ページにもあります。開隆堂は、3ヶ月ごとに年間4回自己評価できるように設定されています。3学年が色分けされており、詳しく書かれております。

以上で、外国語科選定報告を終わります。

和田教育長

外国語科について、質問をお願いします。

柴委員

今年度から、本市では、小学1年生から英語の授業をスタートしました。小学1年生の子どもたちが中学校に入学するのは少し先になりますが、小学校の外国語活動とつながりを持つ教科書が本市にはふさわしいと言えそうですね。そのような教科書はありますか。

岸選定委員

小学校で英語を学んだ生徒は、あいさつや簡単な会話を音声で習得しています。特に聞く・話すというコミュニケーション能力を身につけて、中学に入学する生徒が多いことが本市の特徴です。

東京書籍1年4ページでは、絵とCDなどから聞く活動から、小学校で学んだ表現を活かせるようになっております。三省堂、学校図書も同様に絵と聞く活動からスタートしています。小学校で慣れた活動から学習が始まっています。

阪谷委員

小学校で慣れた活動は、安心感があるかもしれませんが、他市と違い、英語をたくさん学んできた本市の生徒には新鮮味がないのではないのでしょうか。CDを聞くだけでなく、もっとふさわしいものはありませんか。

岸選定委員

開隆堂1年6ページをご覧ください。具体的な場面に空白の吹き出しをつけることで、コミュニケーション場面をイメージさせております。「場面に合わせて友だちや先生と大きな声でやりとりをしましょう。」とあり、生徒が小学校で学んだ英語を会話する活動から設定しており、本市の実態に合っているとと言えます。

澤田委員

私は私学の高校で短期留学を高校生にさせる話を聞いたことがあります。留学すれば、3週間ほどで英会話をマスターして話せる子もいるようです。ところが、日本の高校生は「日本の国のこと」や「日本の伝統文化」を聞かれると、話せなくて黙ってしまう。いくら、話す・聞くといった技能があっても、日本の文化を知らなければコミュニケーションはとれないのです。日本の文化や生活を語れることが大事だと思うのですが、そのような教科書はありますか。

岸選定委員

答申Bの(1)にありますように、どの教科書も、日本の文化については必ず複数取り扱われています。その中でも、開隆堂2年40ページから43ページをご覧ください。落語の小話が2つのっています。落語について取り扱っている教科書は他にもありますが、開隆堂では、生徒が英語で

小話を演じるようになっており、日本文化を知るだけでなく、身に着けることができるようになっております。

嘉名委員

ところで、英語では、4技能をバランスよく学習することと、基礎・基本の確実な定着が重要であると思います。コミュニケーション能力は大切ですが、一方で、学力として英語を身につけてほしいものです。この二つのバランスが、本市の実態にあっている教科書はありますか。

岸選定委員

すべての教科書において、本文（読む）と対話練習やリスニングなど（書く・聞く・話す）という構成になっており、4技能が見開きページで学習できるようになっています。その中で、開隆堂1年68ページをご覧ください。「Try（耳と口で覚えた表現を使って友だちとコミュニケーション活動を楽しみましょう。）」という学習を設定し、コミュニケーション活動を設定しています。

和田教育長

実際のところ、本市の生徒の英語の能力はどれくらいですか。事務局、わかる範囲で教えてください。

小池指導主事

使える英語プロジェクト事業実践研究校における英語能力判定テストの結果によりますと、英検3級相当の能力を持つ生徒が大阪府は約34%ですが、本市の生徒は約46%と府に対してプラス12%の結果となっております。

また、「英語の授業が好きだ。」と答えた生徒は、府が約60%に対して本市の生徒は約80%とプラス20%。また、「学校以外の場所でも外国の人に自分の考えや意見を英語で伝えることができると思う。」と答えた生徒は、府が約40%であったのに対して、本市の生徒は70%という結果でした。

澤田委員

やはり小学校からの英語学習により効果が表れてきているのですね。開隆堂のように、コミュニケーション活動を重視しているのは、やはり本市の生徒の現状に、あっていると思います。

嘉名委員

小学校の卒業式を見たとき、記念品として英語の辞書が渡されてきました。

教科書が変わると、辞書もそれに合わせて変わるのでしょうか。事務局から説明をお願いします。

小池指導主事

本市では、卒業記念品として、英和辞典を全ての小学生に贈っています。そのときに渡す辞書は、選定された教科書と同じ出版社のものを用意しています。現在は、開隆堂の教科書ですので、開隆堂の辞書を贈っています。生徒一人ひとりにとって、少しでも使いやすく、英語の学習を充実させてほしいという願いがあるからです。

和田教育長

では、このあたりで、外国語科の教科書の採択に移ります。これまでの話を聞いていると、本市の生徒の実態から開隆堂がふさわしいようですが、みなさんはどうですか。

委員一同

異議なし。

和田教育長

それでは、外国語科は開隆堂を採択します。

引き続いて、数学科について、審議を始めます。選定委員から報告してください。

松本選定委員

(別冊資料に基づき説明)

中学校教科用図書数学科選定結果について報告いたします。

調査対象は、東京書籍、大日本図書、学校図書、数研出版、啓林館、教育出版社、日本文教出版の7社となります。観点別に特長のあるところを述べます。

まず、Bの(1)についてです。東京書籍2年210ページをご覧ください。このように東書ではインデックス「数学の歴史」を設けています。また、東京書籍では、2年後ろ見開きにありますように「数学を切りひらいた日本人」が紹介されています。啓林館では3年256ページにありますように「伝統・文化」のマークを記載し、ここでは「算額」について取り扱っています。

次に、Bの(2)について、東京書籍2年202ページをご覧ください。東書では、「生活・経済・文化・科学」にチェックを入れ、実社会とのつながりが分かるよう工夫されています。大日本図書2年36ページをご覧ください。大日本図書では、「社会にリンク」で、「数学を活用して社会で活躍している人」が掲載され、数学が身近に感じることができるよう工夫されています。啓林館3年250、251ページの右上をご覧ください。ここには、「日常生活・思考力」と提示されています。このように啓林館では、数学の学習が生活とつながっていることが意識できるよう工夫されています。また、日本文教出版1年260、261ページをご覧ください。日本文教出版では数学研究室に「防災」「健康」のマークをつけ、生活と数学との関連について取り上げられています。

続きまして、Cの(1)についてです。啓林館では、1年別冊31ページにありますように、各章ごとに関連のある算数の学びについて学年を示し、小学校での学びとのつながりが明確にされています。また、教育出版社1年後ろ見返しをご覧ください。教育出版社では「小学算数のまとめ」に小学校と中学校の学習内容のつながりがわかるように工夫されています。日本文教出版、1年119ページをご覧ください。日本文教出版では各章の前に「～を学ぶ前に」が設定されており、特に1年生では「小学校算数」との関連がわかるよう工夫されています。

続きまして、Dの(2)についてです。3社に特長が見られます。東京書籍2年79、80ページをご覧ください。東書ではこのように「学び合い」のページを設け、問題解決学習の流れを提示し、自分で考え、友だちと伝え合い、学習を深める方法について提示されています。大日本図書では2年7ページにありますように、各学年に「数学の世界へようこそ」のページを設け、問題解決学習の流れについて学ぶことができるよう工夫されています。また大日本図書2年137ページをご覧ください。大日本図書では「研究をしよう」のページを設け、研究の進め方についても記載されています。啓林館1年別冊34、35ページをご覧ください。啓林館では「自由研究に取り組もう」を設け、2ページにわたって「研究の進め方」を紹介しています。

続いてDの(3)についてです。学校図書2年8、9ページをご覧ください。このように、学校図書では、子どもたちが自分の考えを進めることができるよう「数学で使われる考え方」が紹介されています。啓林館3年9ページにありますように、啓林館では「数学の見方・考え方にも目を向けよう」で、数学で大切にしている考え方を紹介しています。また教育出版社1年262、263ページをご覧ください。教育出版社でも、「数学で大切にしたい考え方」について取り扱われています。

最後にDの(5)についてです。東京書籍、学校図書、啓林館、日本文教出版に特長が見られますが、特に東京書籍3年212ページをご覧ください。東京書籍では、3年間の学びのつながりを自分で確かめることができるように工夫されています。

以上、数学科の選定報告を終わります。

和田教育長

数学科について、ご意見、ご質問はございませんか。

柴委員

算数・数学というのは子どもたちがつまずきやすい教科です。初めて学ぶ「数学」なので、できるだけつまずかないようにしてあげたいですね。もし分からないところがあったら、どこに戻って何を学び直したらよいの

か、子どもたち自身が小中のつながりがわかるような工夫がされている教科書はあるのでしょうか。

松本選定委員

7社とも小中のつながりが生徒にもわかるように、配慮されています。先ほども述べましたが、特長が見られるのは3社です。啓林館1年別冊31ページをご覧ください。啓林館では、このように算数科で学んだ学年を提示し、小学校との学びのつながりが明確にされています。また、教育出版社1年後ろ見返しをご覧ください。教育出版社では「小学算数のまとめ」と中学1年の学習内容のつながりをチャートで表し、小中のつながりがわかるように工夫されています。日本文教出版1年119ページをご覧ください。日本文教出版では各章の前に「～を学ぶ前に」が設定されており、特に1年生では「小学校算数」との関連がわかるよう工夫されています。

柴委員

なるほど。私は中学生のとき「算数」と「数学」はかけ離れたものだと思っていました。こうしてみると、「算数」と「数学」がつながっていることがよくわかります。子どもたちも「なんだ、小学校でよく似たことを勉強したことある！」って思うでしょうね。

阪谷委員

小学校の教科書採択の時は「算数的活動」が重要視されていました。中学校では「数学的活動」ですよね。確か、前回の学習指導要領改訂の時に「算数的活動」や「数学的活動」が重要視されたことを覚えているのですが、今回の教科書ではどのように扱われていますか。

松本選定委員

「数学的活動」についてはどの教科書も様々な単元において扱われています。数学的活動の中でも教科書によってアプローチの仕方に違いがあります。その点について、2年生の「多角形の外角の和」を例に報告させていただきます。

「学習指導要領における〔数学的活動〕（１）（ア）」では、既習の数学を基にして、数や図形の性質などを見だし、発展させる活動となっております。これは学校図書の２年１１７ページです。このように大日本図書、学校図書、啓林館、教育出版社の４社につきましては、前時の学習、「五角形の内角の和を帰納的に求めること」に加えて、さらに本時でも帰納的に活動をさせた後、演繹的に考え説明するよう取り扱われています。一方、これは数研出版の２年１０８ページです。このように、東京書籍、数研出版、日本文教出版の３社につきましては、前時の学習（五角形の内角の和）を帰納的活動としてとらえ、本時は前時の帰納的活動を活用して演繹的に扱うことから始めています。

阪谷委員

なるほど。「考える」という活動でもアプローチの仕方に違いがあるのですね。

柴委員

一概には言えないかもしれませんが、この学習場面で言うと、本市の子どもたちにはどちらのアプローチの仕方が合っているのでしょうか。松本選定委員は数学を専門とされる教員でいらっしゃいますが、どのように思われますか。

松本選定委員

はい、柴委員がおっしゃるように一概には言えないと思いますが、私なら復習も兼ねて丁寧に帰納的な考え方から授業に入ると思います。

和田教育長

繰り返して学ぶことで、きちんと身に付けるという意味では、いきなり演繹的な考え方に入るよりいいかもしれませんね。ところで、本市の子どもたちの課題は、やはり「活用力」と「表現力」です。体験的な活動や問題解決的な活動を通して、それらを学ぶことができるような教科書はありますか。

松本選定委員

はい。活用力や表現力を育てるための問題解決的な学習については、東京書、大日本図書、啓林館に特長が見られます。東京書籍2年79、80ページをご覧ください。東京書籍では、1つの教材を例に、問題解決的な学習の流れを示しています。1、2年生では3ヶ所、3年生には2ヶ所、「学び合い」のページが設定されているところに特長があるといえます。大日本図書2年7ページをご覧ください。大日本図書では、一般的な学習の進め方として「問題解決的な学習」の流れを紹介しています。また同じく大日本図書2年137ページをご覧ください。このように大日本図書では全学年で「研究の仕方」についても紹介しています。啓林館は、別冊1年34、35ページをご覧ください。

啓林館では「自由研究に取り組もう」で研究の進め方を2ページにわたって大きく取り扱っています。

澤田委員

なるほど。自由研究で問題解決的な学習に取り組まそうという工夫ですね。

嘉名委員

普段大学生と接しているのですが、学生の中には「レポートを書く」といっても何をどう書いてよいのかわからないという学生もいます。「研究って何?」「どうするの?」という学生もいるくらいです。自分で課題を見つけ、それを明確にする。そんなふうに自分で学びを進めることに対して、大学生でもそんな状態ですから、中学生もそうではないでしょうか。

澤田委員

そうですね。「自由研究」と言われても何をどうしてよいのかわからない子どもたちは少なくないと思います。結局、学び方がわからないんですね。「学び方を学ぶ」という意味では、「自由研究」に取り組む、また、取り組めるようにガイダンスしてくれているのはいいですね。数学だけにとどまらず、他教科にも活用できるでしょうし…。

嘉名委員

数学で学んだことを活かして、新たな学びを広げていくことができるわけですね。

和田教育長

「学ぶ」のは学校だけではないですからね。学校を卒業して社会に出ても「学び続ける人」を育てたいですね。そういった意味で、教科からの発展として自由研究を取り上げ、「学び方を学ぶ」ことができるよう配慮されているのはいいですね。

柴委員

ところで、最近「アクティブラーニング」という言葉をよく耳にするのですが、「子どもたちが主体的に学ぶ」ということですよね。「主体的に学ぶ」という観点でみて、特長のある教科書はあるのでしょうか。

松本選定委員

子どもが主体的に考える題材として啓林館だけが他社と少し違った取り上げ方をしている箇所がありますので、紹介します。3年生の関数「 $y = ax^2$ の値の増減と変域」のところでは、啓林館3年99ページをご覧ください。啓林館では、まず、2年生で学んだ一次関数の増減の様子をふりかえっています。次に、そのふりかえりをもとにして、 $y = x^2$ と $y = -x^2$ を提示し、子どもたちに増減の様子を考えさせています。一次関数との類比や対比を通して、場合わけの必要性に気づかせ、次ページで「 $y = ax^2$ 」のグラフ、 $a > 0$ について例示しています。そして、その例示をもとに、「 $y = ax^2$ 」で $a < 0$ の場合を、空欄をうめる形で表現させています。

東京書籍の3年の102ページもご覧ください。東京書籍ではまず、 x の値が -3 から 3 まで増加するときの y の値の変化について求めさせています。その後は、啓林館と同じような進め方になっています。

阪谷委員

東京書籍では、こんな風に具体的な数値を与えているのですね。

松本選定委員

はい、おっしゃる通りです。考える場面を意図的に作りだそうとしているのは、やはり啓林館です。啓林館は「 $y = a x^2$ 」の値の増減のようすについて、まず子どもたちに考えさせています。他社は東京書籍のように具体的に y の値を求めさせたり、最初から $x > 0$ 、 $x < 0$ 、 $x = 0$ の時というように場合分けを示したりしています。

阪谷委員

でも、啓林館のような入り方は難しいのではないですか。私は「場合分け」というのは子どもたちにとっては難しいことだと思います。東京書籍のように、 x の値が「 -3 から 3 まで」と言われたら、子どもたちは -3 の時、 -2 のときと一つずつ確かめることができるのではないのでしょうか。

嘉名委員

帰納的に確かめるとか大切なところを丁寧に教えるという面では東京書籍のような扱いはいいかもしれないですね。だけど、若い教員が増加している中で、それは「教え込み」のような形になってしまわないでしょうか。どうも与えられた数値だけをあてはめて考えるような印象があるんです。子どもたちが与えられた数値で考えるのではなく、啓林館のように、「考えてみましょう」って問いかけられたら、子どもたちは「んっ？」と悩むかもしれません。そのことに対して、みんなで額を寄せ合って意見を交わし、解決する。その過程が大事なのではないのでしょうか。

柴委員

そういうところが、本当の意味で子どもたちの「主体的な学び」なのかもしれませんね。ところで、現場の教員からは、啓林館の教科書が使いにくいという声もあるように聞いておりますが。

松本選定委員

東京書籍の方がすっきり見やすく編集されている感じがあります。逆に啓林館の方は、いろいろ考えさせる要素があるので、その辺りが経験の浅い先生にとっては、取り扱いが難しいという意見もあります。

澤田委員

これから社会に出たときに本当に必要な力というのは、問題を解くことができるということではないはずです。いろいろな問題場面に遭遇したときに何が課題なのかを明確にし、既習事項を活用して解決しようとする、それも他者と関わりながら、どんな困難からも逃げないで、主体的に生きる「ひと」を育てたいですね。これからは、数学の授業でも、「子どもの力を活かした主体的な学び方を取り入れた学習」を取り入れてほしいものです。一方、本市の生徒の学力テストの結果も気になります。昨年度の学力・学習状況調査の数学の結果はどうだったのですか。

和田教育長

数学の結果は、正答率が大阪府平均よりも5ポイント位上回っていて、全国平均よりも、まだよかったですと思いますよ。4年前に啓林館の教科書に変更したところですし、「数学的活動を取り入れながら丁寧に基礎・基本を学ぶ」ことや「主体的に学ぶ工夫」などを考慮すると、啓林館がふさわしいと思うのですが、みなさんはどうですか。

委員一同

異議なし。

和田教育長

それでは、数学科は啓林館を採択いたします。

次に、美術について審議に入ります。選定委員から美術について報告してください。

松本選定委員

(別冊資料に基づき説明)

中学校教科用図書、美術科の調査結果について報告いたします。調査対象は、開隆堂、光村図書、日本文教出版の3社となります。

では、各調査の観点ごとに、特長のある内容について報告いたします。

Aの(1)について、光村図書と日本文教出版で、各単元の冒頭に目標や学習のめあてなどを明示し、見通しを持った学習活動ができるように配慮されています。これは、日本文教出版の例です。

Aの(2)では、光村図書2・3年40ページのように各巻で作品に関連した詩を随所に配置することで、表現活動の多様性に気づかせるとともに、言語活動へのつながりも意識させています。

Bの(1)について、日本文教出版では、2・3年下24ページから29ページの「刻まれた祈り」の部分で、仏像の種類と様式がわかるように、たくさんの種類の仏像を掲載して鑑賞しやすくしており、また、妙法院蓮華王院、いわゆる三十三間堂の堂内の様子の迫力ある構図は、建築物内部の雰囲気も感じ取ることができ、本市に多数ある仏像彫刻への関心を高める絶好の題材となっています。

Bの(2)では、光村図書2・3年5ページから7ページの「朝起きてから夜眠るまでの美術」のように、美術と生活とのかかわりを意識させ、生活の中に根差したデザイン、いわゆる工業デザイン的なもの、その中に含まれる芸術性に気づくよう工夫されています。

Cの(3)について、開隆堂では、2・3年38ページから43ページの「絵巻物の世界」のように、複数のページにわたって1巻すべてを掲載し、しかも、右から左に読み進められる工夫がされています。

Dの(2)について、開隆堂は、2・3年71ページのようにブレインストーミングやマインドマップの手法を取り上げ、人に伝えたいことを表現するまでのプロセスが分かるように工夫されています。

Dの(3)では、日本文教出版1年37ページで、生徒の身近なマンガの代表的な技法である、音声を文字で表現するオノマトペのデザインを取り上げ、生徒の関心意欲を高めるよう工夫されています。

Dの(4)について、光村図書では、1年15ページのように「作者の

言葉」が作品の傍らに、目につくマークとともに付記されていることにより、鑑賞教材として取り扱う際にも作者の心情や制作の意図を伝える手立てとなり、言語活動の充実につながるよう工夫がされています。また、日本文教出版では、1年18ページのように作品を鑑賞する際に、生徒が思いを言語化するためのキーワードを例示する工夫がされています。

Eの(1)について、日本文教出版は、2・3年上6、7ページのようにA4ワイド判の大きさを生かし、見開きで作品を配置したり、裁断いっぱいのところまで写真を掲載したりしているので、見た目に迫力が出るよう工夫されています。

以上で調査報告を終わります。

和田教育長

では、美術科についてご質問願います。

柴委員

どの教科書も美しい芸術作品をたくさん掲載していますね。これだけたくさん作品を見た生徒たちは、さぞや創作意欲を掻き立てられるのでしょうね。

阪谷委員

私は、生徒が作品をつくりあげるには、もちろん技法や知識は必要でしょうが、自らの感覚や頭の中で想像したことを表現したいという気持ちが一番大切だと思います。技術的に優れているに越したことはないですが、意欲的に取り組むというのがいいと思うのですが、各社で何か違いはあるのですか。

松本選定委員

はい、まず、技術的な面からいくと、光村図書と日本文教出版が、それぞれ巻末に様々な技法や素材の生かし方、色彩に関する事柄などを豊富に掲載し、知識や技能を習得できるよう工夫されています。例えば、日本文教出版1年57～59ページの折り込み部分のように、モダンテクニック

などを集中して紹介しています。また、光村図書は、1年50、51ページのように、絵の具の素材の違いから技法まで詳しく掲載しています。

阪谷委員

なるほど、技術の習得には十分だということですね。しかし、先ほど、気持ちとか、意欲とか、形にならないものも大切だということをお伝えしましたが、そのようなことはどうでしょうか。

松本選定委員

はい、素晴らしい芸術作品を見て自らのイメージを膨らますことは大切ですが、同時に、自分でもできそうだという期待感を持たせることも大事だと思います。各社とも、生徒作品を多く掲載していますが、日本文教出版は、A4ワイド判の大画面の利点を生かし、例えば2・3年下8、9ページのように、プロの作家と生徒作品を同じページの中に制作風景も交えて巧みにレイアウトし、参考になるようにすることで、「自分もこんな作品を完成させるぞ」という意欲を持たせることにつながって、とても効果的だと思います。

澤田委員

そういえば、ほかの2社に比べて日本文教出版だけ教科書が大きいですよ。

松本選定委員

はい、3社を比べると、日本文教出版の1社だけA4ワイド判にしています。そうすることで、他社と比較して、全体的にゆったりと見やすいレイアウトになっています。美術作品を鑑賞する際にも、全体を大きくすると作品そのもののサイズも大きくなって迫力が出ます。加えて、写真、図版、説明語句などのバランスを取るためには、このように余裕のある大きさが必要だと思います。

澤田委員

なるほど、大きさも含め、このような仕掛けをすることが、創作意欲を持たせることにつながりそうですね。よくわかりました。

和田教育長

本市の教育の重点である「伝統文化を大切にしたいふるさとのつながり」という観点については、美術科においても大切にしたいところですよ。各社それぞれ工夫があると思うのですが、日本の伝統文化についての取り扱い方はいかがですか。

松本選定委員

はい、各社とも日本の伝統文化については工夫を凝らし、浮世絵や墨絵、蒔絵、螺鈿細工、屏風絵など、日本が誇る芸術作品を多く取り上げています。中でも、光村図書は、1年22ページからの「風神・雷神」をモチーフにした作品について、彫刻と屏風絵という、違う技法の作品を対比させ、それぞれの芸術性に気付かせるよう配慮されています。俵屋宗達の屏風絵はその迫力と共に、色の再現性の高さは評価できます。日本文教出版については、仏教美術の分野では他社より秀でていますが、報告の中にもあったのですが、2・3年下24、25ページに掲載されている仏像について、その中のいくつかは細部まで観察できるように、全体の様子がよくわかる全身像と、顔の表情がよく分かる分身像を同じページに掲載しています。三十三間堂の迫力ある写真は、先ほどお見せしたので印象に残っておられると思います。また、2・3年下55ページには、仏像の種類や各部位の意味も詳しく掲載しているので、より興味深く鑑賞できると思います。

柴委員

本市には多くの仏教美術がありますからね。こういう説明があると、お寺などを訪れたときに、少し見方が変わるかもしれませんね。

松本選定委員

その通りだと思います。加えていうなら、仏像だけでなく建物や様々な

伝統工芸品などを一括して掲載している日本文教出版の2・3年下48・49ページのようなところが、日本の伝統文化を知るうえで、非常に効果的だと思います。

澤田委員

これはいいですね。日本が誇る世界遺産など貴重な遺跡や文化遺産が掲載されています。やっぱり日本が世界に誇る芸術ですよ。社会の教科書ではなく、美術の教科書に載っているところがいいですよ。

柴委員

わたしは伝統工芸品がたくさん掲載されているところがいいと思います。制作している様子が載っているところが、作っている人の気持ちが伝わるものがあるかと思います。

松本選定委員

はい、まさにその通りだと思います。

澤田委員

河内長野市は、文化財のまちですからね。ふるさと学でも伝統や文化に目を向けさせ、郷土に誇りを持たせることを重視していますけど、そういった点では、日本文教出版は非常に興味を惹かれますね。

和田教育長

ほかに、何かお聞きになりたいことはありませんか。

嘉名委員

私は1社だけ、本文の中に違う紙質のものが折り込まれているのがあるのが気になりました。これは、日本文教出版ですよ。

松本選定委員

はい、先ほど伝統文化のところでご覧になった方もいらっしゃると思い

ますが、実は、2・3年上の23ページは墨絵についての紹介になっていますが、紙質を変えることで、墨絵本来の沈んだ、落ち着いた色調がよく再現されていると思います。また、中面を見てみますと、浮世絵が2点、原寸大で掲載されています。これらも、本来の多色木版の雰囲気がよくわかるよう工夫されているところだと思います。これは、洋紙ではなく、和紙を使用しています。

嘉名委員

なるほど。この雰囲気は洋紙ではなかなか出ない「味」がありますよね。よくわかりました。

和田教育長

他にご意見はありませんか。

(委員より意見なし)

和田教育長

では、美術科について採択します。今までの議論をまとめると、技能の習得だけでなく、生徒の意欲を高める工夫、日本文化や芸術を効果的に掲載し、伝統を大切にす本市の教育目標との整合性、そして大きさや体裁、和紙を使う工夫などから考えますと、日本文教出版が良いようですが、どうですか。

委員一同

異議なし。

和田教育長

それでは、美術科は日本文教出版に決定します。

引き続き保健体育について審議を始めます。選定委員から保健体育科について報告してください。

松本選定委員

(別冊資料に基づき説明)

中学校教科用図書、保健体育科の報告をいたします。

選定の対象は、東京書籍、大日本図書、大修館、学研の4社となります。

では、特長的な内容について報告させていただきます。

Aの(2)について、東京書籍口絵7、8ではプロサッカー選手の生活スタイルを通して、摂取する食事が紹介されています。また、学研口絵4、5では「集中力を高めたいとき」や「体重調整が必要なとき」など、生徒が普段の生活のなかで興味に関連する内容が掲載されています。大日本図書口絵5、6では食育に関連する内容が取り上げられています。

Bの(4)について、東京書籍では、139ページの「読み物」のなかで、「国際的なエイズの流行と対策」について紹介しています。大日本図書では、145ページ、トピックスプラスのなかで、「レッドリボン運動」が取り上げられており、エイズに対する差別や偏見をなくしていくメッセージが写真とともに紹介されています。また学研では、2ページに「世界で活躍する人たち」を掲載し、健康、安全、スポーツの分野において、日本国外で活躍する日本人が紹介されています。

次にDの(1)について大修館の巻末ページに「体のつくりと働き」の図を掲載しており、体の部分の名称とともに各器官などの働きが記載されています。学研18ページでは、「プラス」では追加して考えたり、調べたりすることが記載されています。

Dの(2)では、学研は、70、71ページのように「もっと広げる深める」を掲載し、生徒の興味関心に応じて取り組むことができる教材を取り扱っています。

次にDの(3)では3社とも、興味・関心・意欲につながる項目が見られました。東京書籍7ページからご覧ください。ほぼ全ページにわたって学習に関連したクイズが出され、次のページでは解答と解説になっています。大日本図書では、5ページ下方にあるような「ミニ知識」のなかで、学習に関連した情報が取り扱われています。学研では、12ページ下方などのように、「情報サプリ」で発展した内容を伝える部分があります。

Dの(4)について、学研では、124ページ、125ページのように

「探究しようよ」のなかで、活用力や表現力を高めるための学習が、取り扱われています。

Dの(5)について東京書籍では、165ページから「キーワードの解説」が掲載されており、習得すべき知識についてまとめられています。また、大日本図書では、18ページのように「学習のまとめ」が設定されており、重要語句や学習の要点が掲載されています。

同様に学研でも54ページのように「章のまとめ」が設定されており、ふりかえりやすく工夫されています。

以上で、保健体育の報告を終わります。

和田委員長

ただ今、答申を報告いただきましたが、質問はありませんか。

澤田委員

体力向上や健康の保持増進については、一時的な取り組みでは解決できません。小学校から中学校へと長い時間をかけて、積み上げていく課題であると思います。加えて、本市では、小中一貫教育を推進していますよね。小学校と中学校との連続性という観点で優れた教科書はありますか。

松本選定委員

はい。この観点では、東京書籍と学研に特長が見られます。東京書籍の5ページと学研の56ページをご覧ください。2社ともに、小学校での既習事項が掲載されています。生徒はこの記述を読んで、小学校で習得したことを思い起こし、新しい学習へつなげていくことができます。

澤田委員

小学校で学習した内容にくわえて、高校で学習することも記載されているのですね。

松本選定委員

はい。最初にあったように、体力の向上や健康の保持増進という課題は、

中学校時代だけで解決するものではありません。生活習慣病や体力・運動習慣の必要性など、高校になっても学習することについても掲載されています。

阪谷委員

なるほど。よくわかりました。ところで、本市では伝統文化を大切にした教育の推進にも取り組んでいます。保健体育の学習でも、この点で、特長的な教科書はありましたか。

松本選定委員

伝統文化も関連付けて、紹介されています。学研の57ページをご覧ください。「稲村の火」で知られる濱口梧陵氏が紹介されています。また、学研159ページには、柔道の創始者、嘉納治五郎氏が紹介されています。本市の中学校武道は柔道ですから、つながりがあります。このように、学研では、各章の導入ページに過去の偉人の功績を紹介するコーナーがあります。

阪谷委員

こうしたコラムを読み、功績を残してきた偉人の事を知ることで、幅広い教養を身につけることができますね。同じページに職業も紹介されています。キャリア教育にもつながりそうですね。

嘉名委員

ところで、最近、身近なところでAEDを見かけることが多くなりました。以前、大阪府内の高校生がAEDがあったことで、命を取り留めた事例がありました。また、本市ではプール指導時の事故が生じたこともあり、心肺蘇生法を含めた応急手当については非常に大切な学習事項であると考えますが、この観点で優れている教科書はありませんか。

松本選定委員

はい。4社とも「応急手当の基本」「心肺蘇生」などの単元が設けられて

いて、使い方を丁寧に説明されています。東京書籍78ページをご覧ください。応急手当の意義だけでなく、応急手当によって救われた命のコラムや80ページのように、心肺蘇生法の手順まで載せています。大日本図書102ページをご覧ください。生徒に心肺蘇生法をよりわかりやすくするために流れが、見開き2ページ分に収められています。また、説明に写真を加える工夫がなされています。大修館も100ページから、応急手当や心肺蘇生法について説明されています。107ページの「チャレンジ」を使って実習内容を細かく示されています。学研は、72ページから77ページにわたって掲載されています。

嘉名委員

中学生でも「できることがある」ということを増やしておく、いざという時に、役に立つでしょうね。生きる力にもつながるのでしょね。

また、心肺蘇生法については、知識として理解できていても、とっさのときには、なかなか声が出なかったり、体が動かなかったりと聞きます。このような実習を繰り返し経験し、知識と体験を結びつけておかないと本当の意味で生きた知識とはならないですね。4社ともこのことについては、きちんと取り扱っているようですが、その中でも、特に使いやすいのはどの教科書ですか。

松本選定委員

はい。学研74ページから77ページをご覧ください。写真や説明が順序よく配置されています。また、77ページのように、「チェックしながら実習してみよう」が記載され、チェックシートを見ながらグループで実習できる構成となっています。また、本市の職員も毎年ここに使われている神奈川県川崎市消防局救急隊員の講習に準じた資料を活用して、AEDを含む心肺蘇生の研修をしています。まさに、学研の資料と同じなのです。

嘉名委員

なるほど、それで学研が使いやすいという判断なのですね。資料も見やすいですし、教職員全員が学んでいる心肺蘇生法を学習するのはいいです

ね。

柴委員

心肺蘇生法のような実習があればいいのですが、どうしても、保健の学習は室内で座っての学習が中心になってしまいます。実習するといっても毎時間というわけにはいかないですし、それだけでもいいとは思いません。でも、習得した知識をいかに活用して、実生活に結びつけていくかが大切であると考えます。そこで、「学び方」や「活用」という観点で優れた教科書はありますか。

松本選定委員

4社とも「この教科書の使い方」などが、掲載されています。特に学研では、6ページをご覧ください。授業の流れが明確になっています。また、12、13ページもご覧ください。答申にも記載しておりますが、見開きのこのページが1時間の学習となっております。1時間の学習の課題が示され、「ウォームアップ」では、経験や今ある知識をもとに取り組み、本文で学習し「エクササイズ」で考えたり、話し合ったり、調べたりする内容になっています。「活用しよう」や「実習」を設け、授業の最後に、学習したことを、短い時間でまとめることができるように工夫されています。

柴委員

なるほど。1時間の流れがわかりやすく、生徒にとって意欲的に取り組める大きなポイントですね。学習した内容の問題がすぐに活用に生かしくしているというのも、いいですね。

松本選定委員

学研54ページをご覧ください。どの教科書もふりかえりを設けていますが、章のまとめとして「用語の確認」「基礎の完成」「活用の問題」と構成され、より丁寧だと思います。

和田教育長

では、これまでの話から、学研がよりきめ細かく配慮されているとのことですが、保健体育科は、学研を採択することによろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

和田教育長

では、保健体育科は、学研を採択いたします。

それでは、国語科の審議を行います。選定委員から国語科について報告してください。

岡田選定委員

(別冊資料に基づき説明)

中学校教科用図書、国語科の選定報告をいたします。

選定の対象は、東京書籍、学校図書、三省堂、教育出版社、光村図書の5社となります。

Aの(1)については、光村図書では、1年216ページのように読むことの教材の「学習」が「目標」「確認しよう」「自分の考えをもとう」「学習を振り返る」など、活動のプロセスを示しながら指導事項を適切に取り扱っています。

Bの(1)について、東京書籍2年60ページ「鯉節 世界に誇る伝統食」や3年52ページ「評価しながら聞こう」では、伝統文化や地域と関連する教材が取り上げられています。

また、光村図書1年190ページ「桜守三代」では、京都で代々桜を守る人の生き方を紹介する教材を扱っています。

Bの(4)について、光村図書では、3年158ページのように、「平和・共生」をテーマとした教材を掲載しているのに加えて、3年168ページのように、社会の一員としての自覚を持たせるテーマ設定による話し合い活動を取り扱っています。

Cの(4)について、東京書籍は2年21ページ、3年21ページのよ

うに短歌・俳句を第1単元に配置し、次単元で創作活動に広げられるよう単元を構成しています。

また、光村図書では、2年34ページ、3年54ページのように職場体験や修学旅行を題材とした「書くこと」の単元が設定されており、本市中学校の行事の時期と一致しており、体験と学習を関連付けることができます。

Dの(1)について、学校図書1年80ページのように、選択して学習する教材には、新出漢字が使われておらず、生徒の自学に対して配慮されています。

Dの(3)について、東京書籍では1年9ページから16ページのように1年間で学ぶべき内容が一覧にしてまとめられており、見通しを持って学習を進められる工夫が見られます。

三省堂は1年188ページのように「表現プラザ」において、即興劇や超訳に取り組みせ、表現活動に楽しく取り組ませる工夫があります。

光村図書は、1年13ページからの導入単元で、アイスブレイクを取り入れた仲間づくりにもつながる教材を設定し、中学校での学びに対する興味や意欲を高めています。

Dの(5)について、東京書籍では、2年233ページのように「学びを支える言葉の力」があり、学習事項をまとめて掲載することにより、振り返りに活用できる内容となっています。

光村図書では、3年214ページのように「話す・聞く」「書く」学習の振り返りに「次につなげよう」を設けており、他教科や生活の中で学習したことを活用することで定着を図る工夫が見られます。

Eの(1)について、教育出版社では、2年233ページのように、地図中への標記が色だけでなく、形の違いも取り入れることで、識別しやすくなるような配慮が見られます。

また、1ページ当たりの行数が少なく、行間を広く取っています。

以上、5社の教科用図書についての調査結果報告を終わります。

和田教育長

只今、答申を報告いただきましたが、質問はありませんか。

阪谷委員

答申を見ていくと東京書籍と光村図書の評価が高くなっているようですね。

今、東京書籍1年の表紙から1ページめくったところを見ているのですが、「四季を楽しむ言葉」というのがありますね。鮮やかな写真とともに、日本の四季を表わす言葉がたくさん載っていますね。

柴委員

2年、3年にも同様のページがありますよ。それに、2年では二十四節気、3年では旬の食材も載っていますね。食材なんかは、生徒には身近なものですから、漢字で表記してあるとより一層、興味がわくのではないですかね。

岡田選定委員

はい。このようなページは他の教科書にもあるのですが、最も多くの言葉を掲載しているのが東京書籍です。阪谷委員からご指摘をいただいた1年の教科書を1ページめくってみてください。詩が掲載されています。同様に2年では日本独自の表現方法である短歌、3年では俳句が載せられています。これらの詩や短歌、俳句は、各単元の扉のページにも掲載されています。東京書籍3年17ページをご覧ください。先ほどのページにある俳句が美しい写真とともに掲載されています。3学年全ての単元の扉のページがこのような構成になっています。

澤田委員

短歌や俳句は、日本人が確立した表現文化ですからね。よい構成だと思います。ところで、中学校では本格的に古典を学ぶわけですが、東京書籍ではそちらには何か特長があるのですか。

岡田選定委員

古典教材の中に、折り込みのページがあります。東京書籍1年の129ページから132ページをご覧ください。そこには絵巻物を写真で紹介し

て、子どもたちのイメージを膨らませるような工夫が見られます。

また、東京書籍1年の286ページをご覧ください。ここには、古典の名文の冒頭部分などが多く掲載されています。

嘉名委員

古典には特有のリズムがありますよね。こうした名文は繰り返して読むことで、親しみがわき、いつの間にか覚えてしまいますよね。古典に親しむということと考えれば、こうした名文に多く触れることは素晴らしい経験となりますね。

阪谷委員

「四季を楽しむ言葉」と合わせて考えると、東京書籍は多くの言葉や名文に触れさせることで、知識をしっかりと身に付けさせる、いわば基礎基本をしっかりと押さえようとしているように思われますね。

岡田選定委員

おっしゃる通りだと思います。東京書籍では古典以外でも、1年299ページのように「言葉を広げよう」で、たくさんの言葉を資料として掲載し、読むことに活用したり、書くことなどの表現活動に活用したりできるようにしています。同じく東京書籍1年生の304ページからは新出漢字の一覧になるのですが、ここでも用例を多く掲載することで、言葉を知識として習得させていくことができる内容構成となっています。

また、巻末の資料編、1年229ページ以降をご覧ください。「学びを支える言葉の力」が掲載されています。「話す・聞く」「書く」「読む」全てに活用できる基礎的な知識や技能を身に付けることができる内容となっています。

和田教育長

ここには練習問題もありますね。それに、本編の「学びの扉」と関連付けられているのですね。普段の学習から日常的に確認したり、ドリル的に活用したりできる内容になりますね。実際に教科書を使う生徒と教員にと

って、学ぶことが明確になっていますね。

澤田委員

東京書籍のことばかり出てきているのですが、答申では光村図書も評価が高いですね。光村図書についてはどうですか。

岡田選定委員

では、光村図書1年の巻末をご覧ください。「色いろ言葉」があります。一つの「緑」という色を表わすにでも、これだけたくさんの言い方があるのかと思わされます。日本には四季がありますが、それぞれの季節の移り変わりは日々微妙な変化です。そんな豊かな自然とともに生活してきた日本人は言語においてもこうした微妙な違いを表現する言語文化を作り上げてきたのだとあらためて思わされます。

嘉名委員

これはすばらしいですね。日本語の豊かさというか、繊細さというのか。語彙力や表現力を付けるというだけではなく、日本人が豊かな自然とともに育んできた心の豊かさを伝えてくれる、感性を磨くような教材ですね。

岡田選定委員

本市の教育において大切にしている「つながり」という点でも、特長があります。社会の中でのつながりやふるさととのつながりを意識させるような教材を扱っています。光村図書3年168ページをご覧ください。「話し合って提案をまとめよう」とあるのですが、そのリードの文章を見てください。話し合っていくことがなぜ必要なのかということを生徒に伝えていきます。

柴委員

169ページの「若者たちと交流したい」を読んでいると、本市では現実的に取り組むべき問題となっていますね。取り扱っている題材が本市中学3年生にも考えてほしいものですよ。

嘉名委員

光村図書1年の36ページにある「書く」教材でも、取り上げられているのは、幼いころから遊んでいた近所の公園ですね。例文を読んでいると心が温かくなってきます。

阪谷委員

ところで東京書籍では、多くの言葉や古典を掲載したりしているという特長がありましたが、光村図書ではどうなのですか。

岡田選定委員

光村図書の優れているところは、教材の配列でしょうか。光村図書1年142ページと同じく3年155ページにはそれぞれ、古典の入門期とまとめの時期に古典を解説した文章が掲載されています。古典を学び、過去の人物や考え方とつながることで、自分自身の心のありように気付く、世の中を広く深く見ていこうと伝えている文章です。古典を学ぶ意味や価値を古典学習の最初と最後に考えさせるていねいさがあります。

柴委員

古典とは離れますが、中学の学習の最初ということで光村図書1年14ページを見ると、小学校とのつながりを意識した教材がありますね。18ページの活動を見てみると、新しいクラスの仲間がつながるための活動になりそうですね。

阪谷委員

本市の進めている小中一貫教育にも関連があるということですね。こうして見ていくと、光村図書の教科書は人や社会との「つながり」を意識しながら学習活動を進めていくことが根底にあることがわかってきますね。

岡田選定委員

そうだと思います。教材の配列のことをもう少し言わせていただくと、「話す・聞く」「書く」領域には「練習」が設けられており、繰り返し言語

活動に取り組むことで学力をつけていく工夫がされています。また、3学年とも最終単元が「話す・聞く」「書く」を複合させた単元になっており、1年間の学習のまとめができるような構成となっています。このような単元は小学校5年生から継続的に取り組めるようになっており、学習活動の反復と積み重ねによって力を付けていくことができる教科書であると言えます。

和田教育長

確かにどちらの教科書にも長所があります。東京書籍は学習事項が「明確」である良さがあり、光村図書には「反復と積み重ね」の良さがあります。どちらを使うことが河内長野市の子どもたちにとって適しているのか、直接比較できることで、何か2社の違いが分かることはないのですか。

岡田選定委員

そうですね。実は、全社がそれぞれの学年で共通の文学的文章を掲載しています。1年では「少年の日の思い出」、2年では「走れメロス」、3年では「故郷」です。東京書籍と光村図書がこれらの文章を学ばせる時に、読みの目標に大きな違いが出ています。東京書籍1年156ページと光村図書1年202ページを、東京書籍2年152ページと光村図書2年192ページを、東京書籍3年154ページと光村図書3年106ページを、それぞれご覧いただき、題名下にある「目標」を読んでみてください。

嘉名委員

2つ目の目標に違いがあるのでしょうか。東京書籍が構成や展開といったところに考えを持つというのに対して、光村図書は登場人物の考え方や人との関わりに対して考えを持つというところが違いますね。

澤田委員

こうした文学的文章を読ませていくとなると、経験の浅い教員はどうしても「登場人物の気持ちはどうですか？」という発問ばかりをして、文章を前から順番に読ませ、「気持ちは？」という発問に偏ってしまう。そうい

った授業を幾度か見たことがあります。

客観的に物事を捉えたり、分析的に読んだり、論理的に説明したりするためには「気持ち」を読むだけでなく、表現技法や構成といった客観的に判断できる事実を、確実に読み取る力を育んでいくことが必要ではないでしょうか。

岡田選定委員

先ほどの議論の中にも出てまいりましたが、もう一度、東京書籍1年の229ページをご覧ください。この「学びを支える言葉の力」には、今、澤田委員がおっしゃったことを学ぶことのできる教材がまとめて掲載されています。このように学習事項をまとめて明確に取り上げているのが、東京書籍の特色です。2年、3年の教科書にも同様に掲載されています。

学ぶべき事項が明確に示されていることで、指導する教員にとっても「気持ちは？」という抽象的な発問に頼らず、根拠のあることを発問し、生徒も根拠をもって考えることができると思います。

嘉名委員

近年、若い教員が増えてきており、教員の指導力を上げていくことも増々大きな課題となっていくことが考えられます。生徒への基礎基本の定着に優れ、教員にとって指導すべき事項が明確である東京書籍の教科書が、本市の現状から考えると、適しているように思えますね。

岡田選定委員

近年の学力状況調査から分かってきた本市の課題から考えると、自分の考えを持ったり、表現したりするための基礎的な知識や技能を身に付けさせることが喫緊の課題であり、東京書籍の教科書を使うことで、課題に正対した授業改善に結び付けることが可能になってくるとも考えます。

和田教育長

教職員の年齢構成も府全体で平成30年には、50代が1割になるといわれています。今まで教員研修の中心を担ってきた先生が少なくなってきました。

指導力の育成が必要となってくる若い先生が増える中、東京書籍は、基礎的な部分がきちっと抑えられており、文章の構成を考える力や表現する力を大事にしています。光村図書では、話題に上がった教材以外でも登場人物に迫る読みができる洗練された物語文や話し合い活動での話題の取り上げ方に優れた教材があり、捨てがたいところがあります。しかし、生徒にとって基礎的基本的な知識や技能を身に付けさせなければならない現状があること、経験の少ない教員の指導力の向上を図らなければならない現状があることを考えていくと東京書籍を採択すべきだと思います。

他に意見はありますか。

(委員から意見なし。)

和田教育長

それでは、国語科について採択いたします。本市の実態などを考えた時、東京書籍がより良いような意見が多いのですが、東京書籍でよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

和田教育長

それでは、国語は東京書籍を採択いたします。

引き続きまして、書写の審議を行います。選定委員から書写について報告してください。

岡田選定委員

(別冊資料に基づき説明)

中学校教科用図書、書写の選定報告をいたします。

選定対象は、東京書籍、学校図書、三省堂、教育出版社、光村図書の5社となります。

では、特長的な内容について報告させていただきます。

Aの(1)について、教育出版社は114ページに「書式の教室」が設定されており、社会生活に必要な知識や目的や意図に応じた書字に関する指導事項がまとめて掲載されています。

Bの(1)について、東京書籍は表紙裏に筆記用具の発達とそれに伴う文字の変化を織り込み、日本の伝統文化と文字文化について学ぶ機会を設けています。

また、教育出版社では、80～83ページにありますように色紙や短冊といった日本の伝統的な紙を使い書字についての伝統に触れる機会となっています。

Bの(3)では、東京書籍、学校図書、教育出版社について特長が見られました。東京書籍は40ページにありますように、筆記用具や用紙ができるまでの過程を筆・硯・墨以外についても写真を多く掲載して説明しています。教育出版社は同様に筆記用具の説明において、生産地の紹介も加えています。また、学校図書は56、57ページのように、手本ページには手本以外の文字を省き、書写に集中しやすい紙面構成となっています。

Cの(1)について、教育出版社は、123ページのように、小学校で学習した漢字の行書体一覧表で、学習方法の工夫を促す説明を加えて紹介しています。

Cの(4)について、三省堂は24、25ページのように、「学習に生かして書く」において、「竹取物語」を硬筆で書く教材を掲載し、国語科との関連を持たせています。アルファベットの大文字、小文字についても硬筆書写で取り扱っています。

また、光村図書は72ページのように、国語科の「書く」領域との関連を持たせたレポート作りや新聞づくりの例示を詳しく掲載しています。

Dの(3)については、東京書籍、教育出版社に特長が見られました。

東京書籍は巻末折り込みページに「季節の言葉」を掲載し、季節を表す言葉や二十四節気、月の異名等が風景の写真とともに紹介されています。また、教育出版社は、34、35ページのように歴史上の人物や作家等が残した書や原稿を掲載し、興味関心を高めるだけでなく、他教科への関連も図ることができる構成となっています。

Dの(5)について、東京書籍は102、103ページのように、「書写

テスト」を掲載しており、書写の知識・技能の定着度を自分で確かめることができるよう配慮されています。

Eの(1)について、教育出版社は47ページのように、教科書に直接書き込む箇所には、配列よく書くために補助線や記号が記載されており、学習目標達成のための配慮が見られます。

以上で、書写の選定結果の報告とさせていただきます。

和田教育長

只今、答申を報告いただきましたが、質問はありませんか。

嘉名委員

どの教科書をとっても伝統文化や文字文化について、紹介されているように見えるのですが、この観点で優れた教科書はありますか。

岡田選定委員

はい。伝統文化や文字文化のことで比較すると確かにどの教科書にも工夫が見られますが、まず東京書籍に特長があります。

東京書籍表紙裏のページをご覧ください。ここでは、用具の発達と文字の変化を時代とともに掲載しています。今から二千年以上前の時代から人は文字を書いていたことを紹介しており、文字文化の深さに触れることができます。次に、巻末の折り込みページをご覧ください。

柴委員

美しいですね。四季それぞれの風景をとらえた写真も良いのですが、書かれている文字が行書体ですね。これがまた、日本らしさを一段と表現していますね。

岡田選定委員

私もそのように思います。行書体で書かれていることで、実際に生徒が手本として書くという活動に活用できます。また、月の異名であったり、二十四節気であったりと、知識も豊富に学ぶことができるすばらしい構成

となっています。

嘉名教育委員

教育出版社のほうには「日本建築と書」というのがあるようですが、こちらはどうなのですか。

岡田選定委員

それでは教育出版社の84、85ページをご覧ください。今の時代にも続いている和室について、室町時代から始まったことを紹介しており、書が昔から生活の中に一つの芸術として扱われてきたことが分かります。

澤田委員

これはまたすばらしい。最近の家はかろうじて和室を残してはいるけれど、このような床に花や書画が飾られているような家は減ってきていますからね。日本人が生活の中で脈々と築き上げてきたこのような伝統を紹介しているのは、日本人の心を受け継いでいくということでも大切なことですね。

阪谷委員

写真をよく見ると、京都や和歌山といった近畿圏の写真が掲載されていますね。これは、生徒にとって親しみが持てますね。

岡田選定委員

はい。これは教科書全体を通していえることですが、教育出版社は近畿圏の府県に関係あるものが多く取り扱われています。教育出版社67ページをご覧ください。ここには、大阪出身の福沢諭吉の書が掲載されています。

嘉名委員

他にもありましたよ。108ページです。ここには、天満橋の橋銘が写真で載っているのですよ。生徒にとって自分の身近な場所が載っていると、

教科書を見る姿勢というか、気持ちが変わってきますね。

和田教育長

話は変わりますが、指導要領には「毛筆書写が硬筆書写の能力の基礎を養う」とあるわけですが、この点で優れた教科書はありますか。

岡田選定委員

これも教育出版社が優れています。硬筆書写を扱っているページ数での比較では、教育出版社が多くなっています。直接書き込むことができるページが多いので、毛筆で学習したことをすぐに硬筆での書写に生かした学習が展開できます。

阪谷委員

なるほど。確かに、教育出版社は多いですが、紙面の大きな東京書籍にしても直接書く箇所が多く設定されているように思います。数の比較だけでは本当に良いかどうかは分かりませんね。何か他の違いはありますか。

岡田選定委員

確かに、紙面の大きい東京書籍では、1ページあたりに書き込む文字数は多く設定できます。しかし、決定的に違うのは、生徒が書き込むときのマスや罫線にあります。教育出版社47ページをご覧ください。そこにあるマスに注目していただきたいのですが、マスの中に十字の点線があります。次に53ページをご覧ください。こちらは罫線の真ん中に破線が入れてあります。さらに86ページをご覧ください。「試し書き」の箇所には上下に三角形のポイントが示してあります。他の教科書も同様にあるのですが、教育出版社は鉛筆で書かせる全ての箇所にこのいずれかの補助をしています。

柴委員

確かに他の教科書を見ていると、これらはあったり、無かったりになっていますね。書写の指導事項には字形を整えて書く、大きさや配列につい

て理解するというのがありますが、教育出版社が徹底してこの指導事項を身に付けさせようという、ていねいさが表れているように見えますね。

岡田選定委員

また、教育出版社114ページからは、「書式の教室」を掲載しています。ここには、社会生活や日常生活に必要な書字の例示がまとめてされており、書写の学習を生活にも活用できるよう配慮された構成となっています。

阪谷委員

117ページには「包み紙の書き方」とありますが、そこに「お祝いのはきは濃い墨、おくやみのはきは薄い墨で表書きを書く」ということまで説明している。これも大切な日本人の礼儀作法としての伝統の一部ですよ。これから社会に出ていく生徒たちにとって大切な常識となりますね。

澤田委員

いままでの審議を踏まえると、教育出版社を採択することになるのかと思います。一つ、気になることがあります。書写は国語科の一部です。それから考えればやはり「学力向上」という面でも考えなければならないと思います。

岡田選定委員

はい。このことに関してもやはり教育出版社が優れています。教育出版社では生徒が主体的に学び、発展的な学習が展開できる構成となっています。

教育出版社50、51ページをご覧ください。一つの題材について、「目標」から「試し書き」「考えよう」「生かそう」「まとめ書き」「振り返ろう」という学習の流れが、見開きにまとめられています。生徒は自ら見通しと課題を持って学習に取り組むことができます。

柴委員

なるほど。特にこの「考えよう」という思考の過程を扱うことが思考力

を付けていくためには大切なことですね。全ての教科の学習において積み重ねていく必要のあることですからね。先ほど、教育出版社の教科書にはていねいさがあるという話が出ましたが、ここにもていねいさが表れていますね。

岡田選定委員

教育出版社120ページもご覧いただきたいのですが、ここには「補充教材集」が掲載されています。生徒が発展的に取り組む課題なのですが、ここでも、生徒が主体的に自らの課題に沿って学習することになります。

さらに付け加えておくと、もう一度50、51ページに戻っていただいて、ページ左上の写真をご覧ください。これは、行書の指導事項について写真を使って、ていねいに解説しているところです。行書の指導事項として、点画の方向や止め、払いの形が変わることや点画が連続したり省略されたりする場合があること等があります。教育出版社ではこれらの指導事項について写真を掲載しながら繰り返し指導できる構成としています。実は、過去の全国学力学習状況調査において、書写に関する問題は、この行書の基礎的な書き方に関わる問題が、何度も出題されているのです。

澤田委員

全国学力学習状況調査についての対応も、テストの前にテスト対策だけをやっても力は付かないですからね。いかに普段の授業の中に必要な学習活動を取入れていけるのかが、生徒の本当の学力の向上につながり、ひいてはテストの結果にも表れてくると思います。普段の授業の中で自然と力をつけていくことができる教育出版社の教科書の構成が秀でているように思います。

和田教育長

そろそろ、みなさんいかがでしょうか。

今までの議論で、教育出版社の教科書は、日本人の文字文化や生活文化を大切に扱っていることや、非常にていねいに生徒の学力の向上に係る部分を取り扱っています。

これらのことを考えれば、やはり教育出版社が優れていると思います。
他に意見はありませんか。

(委員より意見なし。)

和田教育長

それでは、書写については教育出版社を採択してよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

和田教育長

それでは、書写は教育出版社を採択いたします。

引き続きまして、技術科の審議をします。選定委員から技術・家庭科、
技術科分野の報告をお願いします。

岡田選定委員

(別冊資料に基づき説明)

中学校教科用図書技術・家庭科、技術科分野の選定結果について、報告
致します。選定の対象は、東京書籍、教育図書、開隆堂の3社となります。
選定の観点ごとに、特に、特長的な違いについて報告させていただきます。

はじめに、Aの(2)について、開隆堂244ページをご覧ください。
開隆堂では6ページにわたり、「進んで技術を評価し生活をよりよくする」
を扱い、自分たちの生活をよりよくするために技術分野での学習を活用し、
持続可能な社会を築く態度を育むことができるよう配慮されています。ま
た、開隆堂196ページから201ページにあるように、この教科書にお
いては、情報モラルや人権や個人情報の保護、知的財産の保護について記
載されています。

次に、Bの(1)についてです。東京書籍61ページには「技術の匠」
というコーナーが設けられています。日本の伝統的技術に携わり、社会で
活躍している方から学ぶことができるよう工夫されています。教育図書5

7ページをご覧ください。教図では「木材が支える文化と伝統」として、桶や樽、神輿を紹介し、日本の伝統的な木工製品の工夫について学ぶことができるようになっていました。また、開隆堂7ページをご覧ください。開隆堂では、法隆寺五重塔と東京スカイツリーの心柱（しんばしら）について対比する場面を設け、先人の技術が今も生きていることを紹介しています。また、開隆堂では9ページでも「活躍している日本の伝統技術」を、携帯電話を例にして取り上げています。

続いて、Cの（1）についてです。東京書籍19ページをご覧ください。東京書籍では、各編のはじめに中学校において「この編で学ぶこと」と「小学校」での学びとのつながりについて提示されています。東京書籍32ページにありますように、東京書籍では「小学校」のマークが随所に見られ、小学校での教科とのつながりが意識できるように工夫されています。開隆堂5ページをご覧ください。開隆堂では、「小学校での学び」と「技術分野での学び」イラストや写真とともに掲載され、小中のつながりを視覚的に捉えることができるよう工夫されています。

最後に、Dの（2）についてです。東京書籍の12、13ページの「社会のものづくり」と東京書籍14、15ページ「技術の学び方」をご覧ください。このように東京書籍では、「社会のものづくり」と「技術の学び方」について対比させ、PLAN・DO・CHECK・ACT（アクション）のサイクルが明記されています。続いて、教育図書108ページをご覧ください。

「調べよう」「やってみよう」「考えよう」があり、体験的な活動を通して考える場が設定されています。開隆堂では、14、15ページのように学習の進め方としてPLAN・DO・CHECK・ACT（アクション）を2ページにわたり提示し、筋道を立てて作業に取り組むことができるように工夫されています。また、開隆堂164ページ右上にあるように「工夫してみよう」のコーナーを設け、考える視点を明確にして活動することができるよう工夫されています。

以上で、技術科分野の選定報告とさせていただきます。

和田教育長

それでは、技術科分野の採択に入りたいと思います。質問をお願いします。

阪谷委員

「技術」といえば「ものづくり」という実技のイメージが強いのですが、教科書を見て確かめながら実技を行うことができるような教科書はありますか。

岡田選定委員

はい、例えば木材の切断についてのページを比べてみると、開隆堂58ページでは、のこ身と顔の中心が一致するように写真に点線が描かれています。生徒が点線を意識して作業できるよう工夫されています。

阪谷委員

なるほど。今の子どもたちには生活体験の不足が課題でもありますから、教科書で確認しながら作業を進めることができるというのはいいですね。

柴委員

技術といえば実技教科ですが、教師が指示したとおり、ただ単に「ものづくり」や「栽培」等の実習を行っても意味がないと思うのですが、そのような視点で工夫された教科書はありますか。

岡田選定委員

はい。ございます。開隆堂164ページをご覧ください。開隆堂ではこのように、実習例に「工夫してみよう」を設け、考える視点をもって実習することができるよう工夫されています。

柴委員

なるほど、ただ単に実習するのではないですね。そもそも、技術は「ものづくり」だけではありません。「技術」について評価することで新たな課題を見つけ、考え、計画を立て、自分たちの生活や社会をよりよくする、

そんな意気込みをもった人づくりの「技術科」であって欲しいものです。そのような観点について扱っている教科書はあるのですか。

岡田選定委員

はい。東京書籍84ページをご覧ください。東書では、「技術を適切に評価・活用する章」が設けられています。開隆堂でも同様に、「技術を適切に評価・活用する章」が設けられています。また、3社とも問題解決的な学習ができるように工夫されていますが、特に開隆堂14、15ページをご覧ください。開隆堂では、筋道を立てて作業に取り組むことができるように「学習の進め方」を提示するだけでなく、先ほど柴委員の質問にもお答えしたように、「考える視点」をもって実習できるよう工夫されております。

澤田委員

目標をもって学ぶことができるように工夫されているんですね。

ところで、日本の技術は、いまやめざましい発展をとげています。まさに「技術革新」だと思うのですが、私は、日本ならではの伝統的な技術も大切にしなければならないと思っています。昔ならではの日本の伝統技術があるからこそ、今の技術があると思うのですが、そのようなことを扱っている教科書はあるのでしょうか。

岡田選定委員

はい。先ほども述べましたとおり3社とも日本の伝統技術については触れています。特に、開隆堂9ページをご覧ください。このように、陶磁器の焼きや塗りの技術がセラミックを使った電子部品づくりに生かされていること、薄くて強く、均一な和紙を作る技術が電子部品に使われていることなど、多機能携帯電話や充電器に日本の伝統技術、陶磁器の技術や和紙の技術が活用されていることを紹介しています。

和田教育長

なるほど、子どもたちの身近にある携帯電話を例にしてあるので、子どもたちは興味をもつでしょうね。それにしても、日本の技術は素晴らしい

と思います。伝統技術を活かして、新しいものを創りだし、技術を発展させる意義を考えさせる場面でもありますね。どこの会社だったか、技術の歴史年表があったような気がするのですが。

岡田選定委員

開隆堂2ページ、3ページにあります。

澤田委員

この年表を見ると、技術は進歩し続けていると改めて実感します。未来を担う子どもたちには、今の技術をしっかり学び、日本の伝統文化である「技」を活かし、世界に通じる「技」を創りだしてほしいものです。このように、技術の進歩の足跡を見ることができるといいですね。

和田教育長

ところで、本市が進めているICT教育についてですが、最近インターネットや携帯電話に関する問題も多いと聞きます。その点について、教科書を通して「技術」で学ぶ機会はあるのでしょうか。

岡田選定委員

情報モラルや知的財産については3社とも扱っています。特に東京書籍と開隆堂では6ページにわたり取り扱われています。東京書籍213ページをご覧ください。東書では、事例を列挙し、プラス面とマイナス面を提示し、それらの解説を次ページに掲載しています。開隆堂では、198ページのように「肖像権の保護」「人権・プライバシーの保護」「個人情報の保護」「著作権の保護」というように、何を保護する必要があるのかを明記し、事例を紹介しています。

和田教育長

なるほど。本市の子どもたちには、情報を扱う際のルールとマナーを是非身に付けてもらいたいものです。

澤田委員

「こんなのはだめなんだな」だけでなく、「肖像権があるからだめ」「人権やプライバシーを守る必要があるからだめ」とはっきりしている方が、本市の子どもたちにはわかりやすいかもしれませんね。

嘉名委員

報告を聞いても、今の話を聞いても、開隆堂がいいと思いますね。

和田教育長

本市の子どもたちの実態を考えると、経験不足の子どもたちが教科書を見ながら、考える視点をもって実習できるのはいいですね。本市が進めるICT教育においても、また、これからの社会を生きる子どもたちが伝統技術を学び、さらに発展させることができるような学びができそうです。このようなことを考えると、開隆堂がよいと思うのですが、いかがですか。

委員一同

異議なし。

和田委員

それでは、技術科の教科書として開隆堂を採択いたします。

引き続き、理科について、審議を始めます。まずは選定委員から報告してください。

林選定委員

(別冊資料に基づき説明)

中学校教科用図書、理科の選定の報告をいたします。

調査対象は、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版社、啓林館の5社となります。

観点Aの(1)については、教育出版社に特長があります。

1年262ページを見てください。各学年にあるのですが、巻末資料として博物館などの校外の施設の活用について書かれており、生徒が地域の施設を利用することにつなげ、学習したことを深める工夫がなされています。

す。このような工夫は東京書籍、大日本図書にも見られます。

さらに教育出版社の各学年巻末では、学習指導要領の科学の基本的な見方や概念の柱である「粒子」「エネルギー」「生命」「地球」を意識した構成となっており、3年間のつながりとともに示しています。この特徴は学校図書にも見られます。

続いてAの(2)については東京書籍が、本市が推進している「読書」について取り上げています。例えば1年67ページをご覧ください。各単元の最後に科学に関する本を2冊ずつ紹介しており、生徒が読書に触れる機会を増やし、科学に関する興味関心を持たせることができるよう工夫されています。

次に観点Bの(1)については、啓林館が特長的です。

啓林館は全学年の巻末資料に「サイエンス トラベラー」と題して、日本の地方別の自然環境や伝統文化等の資料を多く取り扱っています。1年の244ページをご覧くださいと近畿地方の資料が載っていますが、二上山や堺市の鉄加工、上町台地など本市の生徒たちの生活圏でもある近隣の地域について掲載されており、地域のつながりを意識させる工夫がなされています。

また、加えて、3年241ページにもありますように、教科書のコラムや欄外資料に「伝統文化マーク」をつけ、先人が生み出し、現在にも伝わる伝統的な科学技術を数多く紹介しており、本市の教育の重点である伝統文化を大切にしています。

観点Cの(3)については、東京書籍に特長があります。

東京書籍は全学年の教科書の最初の1ページを見るとわかりますように、大きくインパクトのある写真が取り入れられており、生徒の学習意欲をかきたて、学習を効果的に進めることができるよう配慮されています。

また、単元や各章の始まりが左ページから始まるよう意識して作られており、見開きの2ページで1つの内容のことをわかりやすく説明し、生徒が学習内容を理解しやすいようにまとめられています。これについては大日本図書、学校図書も同様のまとめ方をしています。

続いて観点Cの(4)についてです。こちらは教育出版社に特長があります。1年265、266ページからもわかるように、「理科で使う算数・

数学」として小数の計算、比例と反比例、割合と百分率、一次方程式等を例題とともに取り上げ、他教科とつなげ、生徒が確認しやすいようにまとめられています。この点については啓林館も同様にまとめられています。

続いて、観点Dの（3）についてですが、東京書籍に特長があります。

例えば3年58、59ページを見てください。全単元末に言えることですが、「from JAPAN 日本の科学」と題して、日本の高度な科学技術について2ページにわたり紹介し、生徒の興味が高まるよう工夫されています。これについては学校図書の「科学を仕事に生かす」や啓林館の「広がる世界について」でも同様な工夫がなされています。

また、東京書籍は、3年88、89ページにありますように、3年生の生命の単元で、導入としてエンドウではなくハムスターの体毛の色で遺伝の規則性について取り上げており、ひと目でこの章の課題についてとらえることができるよう工夫されています。

続いてDの（5）についてですが、啓林館は別冊として「マイノート」を学年ごとに用意しているのが特長的です。学習の振り返りや発展的な問題を1冊のノートにまとめることによって、学習した内容が十分に習得できるよう工夫されています。

以上で、理科の選定報告とさせていただきます。

和田教育長

それでは、理科の答申について、審議願います。

柴委員

今使っている教科書は啓林館ですね。前の採択時にもこの別冊の「マイノート」はついていましたが、実際に学校現場ではどんな意見が出ていますか。

林選定委員

はい、マイノートは、問題が多く掲載されており、十分な知識がつくようになっていたり、教科書を開きながら問題に取り組んだりできる点など、良

いという意見があります。ただ、別冊なので実際には無くしてしまったり、忘れてしまったりする生徒がいたり、そのため、教員が預かっておかなければいけないとか、マイノートは長所と短所のどちらの意見もあるといった状況です。

阪谷委員

マイノートを抜くと啓林館の教科書は、若干薄い感じがしますが、本文のページ数は他の教科書と比べてどうなのでしょう。

林選定委員

はい。府教委の選定資料に載っていますが、理科の25ページです。マイノートを除けば3学年の総ページ数が850ページです。他社のページ数は単元末問題を抜いて比較しないと行けませんので、次のページに記載されている練習問題のページ数を引いてみますと、啓林館は教育出版社の次にページ数が少ないという状況です。

阪谷委員

ということは、別冊を除けば内容の記載が少ないということですか。

林選定委員

それが、そうではありません。例を上げますと、啓林館の1年130ページを開けてもらえますか。ここでは密度について記載されています。同じ内容の東京書籍の1年77ページや、学校図書1年22ページと比較してみますと、練習問題や実験など、逆に情報量は啓林館の方が多いです。啓林館は1ページに詰め込んでいる情報量の多さで、本文のページ数の少なさをカバーしているという特徴があります。

阪谷委員

確かに他の教科書と見比べると、啓林館は1ページに記載してある情報量が多いと感じますね。けれど、子どもたちにとっては、どちらがいいのでしょうか。私は、東京書籍や学校図書の教科書の方が、すっきりとまと

まっぴいて理解しやすいように思いますが。

柴委員

そうですね、啓林館の方が1ページの情報量は多いように思いますが、観点Cの(3)で指摘されているように、東京書籍と大日本図書と学校図書は、教科書のページ数が多い分、見開きの2ページで同じ内容が記載されていて見やすく感じますね。

和田教育長

啓林館の方が、上級者向けの教科書ということですかね。

今年度は、全国学力学習状況調査において理科が追加されて、その結果も気になるところですが、子どもたちの学力を伸ばすための工夫という点では、違いはどうでしょうか。

林選定委員

各社とも、様々な工夫が見られます。例えばDの(1)の観点では答申にありますように東京書籍の1年181ページを見てみますと生徒が苦手とする「圧力の計算」など、数値を扱う内容において例題を取り上げ、計算方法や単位の換算方法、割り算の筆算などの詳しい説明や補充的な練習問題が載せられており、生徒の理解が進むよう配慮されています。

また、Dの(2)については各社とも自由研究について取り上げ、生徒がテーマを決め、自ら探究できるような説明を載せていますが、東京書籍は2年83ページを見てもわかりますように、各学年の単元ごとに、自由研究のコーナーが設けられており、各単元について、より深い研究を進められるよう工夫されています。

澤田委員

学力への配慮といっても、基礎や発展的な知識理解だけではなく、活用力や表現力、思考力、判断力など様々な育むべき力がありますが、そのあたりについてはどうですか。

林選定委員

はい。啓林館の1年256、257ページを見てください。「理科における話し合いと発表」と題して、実験結果の分析から話し合い、発表へといった分析力、活用力、表現力をつける工夫が見られます。これは全学年の巻末資料として載せています。

また、大日本図書2年74ページを見てください。「学んだことを生かそう」と題し、知識の整理、実験、結果分析、話し合い、その結果を伝えるといったプレゼンテーション能力をつける内容になっています。大日本図書では、すべての単元末に「終章」として取り入れられています。

そして、東京書籍では、2年82ページを見てください。日々の生活体験の中にある疑問に対して、問いが物語のようにつながっており、その中で自分の考えを説明させたり、実験結果の表にタイトルをつけさせたりするなど、活用力や表現力を育むことができる問題を採用しています。

澤田委員

東京書籍のこの問題は、私も調べていましたが、学力テストのB問題に近い、面白い問題ですね。結果の表にタイトルをつけさせたり、問題を解くための方法を自分で選択したりするなど、表現力や活用力を伸ばす、よくできた問題だと思います。

和田教育長

ところで、府教委の選定資料の最後に、単元中に扱う学習の順序が表になっているので、見ると、教科書によって学習する順番が違っているのだけれど、これは、教える側の教員や学習する側の生徒から見て影響はないのですか。

澤田委員

それは、それなりの意図があるから異なっているのですね。

例えば、学校図書では、1年生の状態変化を先に学ばせていますが、この単元のポイントとなる「物質の粒子性」を生徒に早く捉えさせようという意図でしょうね。まずは、ここで粒子のイメージ作りをしておいて、そ

の後、気体や水溶液やろ過の仕方などを、粒子のモデルで説明して、さらに深く捉えさせようとしていますね。2年生の化学変化の単元を学校図書は「原子・分子」から学習するのも、そういう意図があると思います。

和田教育長

3年の「運動とエネルギー」の単元では、東京書籍だけが、運動から学習しているのも意図があるのでしょうか。

林選定委員

それについては、東京書籍3年の120ページを見ていただけますか。このページの「予想しよう」にあるように、現象面から原因である力の大きさを導き出そうというのが東京書籍の扱い方で、他の教科書は、原因である「力」を先に捉えさせ、現象面につなげていくという意図があると思います。

和田教育長

理科をご専門とされていた澤田委員から見られて、この扱い方をどう思いますか。

澤田委員

私は、現象面からより、原因となる力を先に学ぶ方が良いように思いますが、生徒にとって、目に見えない「力」というものを、理解させるために、矢印で力のイメージをつけていくことを1年生で学ぶのだけど、3年生でも、早く力の矢印を使ってイメージ作りを図る方が、現象面である運動の理解につながりやすいと思います。教員がそれを意識して、授業を進めることができれば、どちらからでも大丈夫かと思うのですが。

和田教育長

なるほど。それ以外ではどうでしょうか。

嘉名委員

学習意欲の面ではどうでしょうか。今の生徒はなかなか学習意欲が持て

ないと言われているので、教師はいかに生徒に興味・関心を持たせ、学習意欲につなげるかが授業を行う上でのカギとなると思います。どの教科書も工夫はあるでしょうが、より特長的な教科書はというとどれでしょうか。

林選定委員

はい。各社とも本文の内容以外にコラムなどの読み物を取り入れ、興味・関心を引き出すように工夫していますが、報告いたしました答申のDの(3)に記載していますとおり、東京書籍、学校図書、啓林館はそれぞれ単元末に読み物を取り入れています。3社とも興味深い内容です。

嘉名委員

そうですね。それ以外に東京書籍は、表紙の見開きにある「科学と人の物語」には、科学と人とのつながりについての興味深い話題を取り上げていますね。それから、その後続く折り込みの写真も、たしかにインパクトのある興味深い写真ですね。

和田教育長

子どもたちの興味関心も大切ですが、今年の河内長野市の重点である言語活動についてはどうですか。

林選定委員

東京書籍は他にも、全ての章の最初と最後に「before & after」で、学習の前後で言語活動につなげたり、章の途中で「学びを活かして考えよう」という言語活動を行う部分を設けたりして、かなり言語活動を意識した教科書の作りになっています。

和田教育長

観点別評価のポイントを見ても、東京書籍が頭1つ抜けていますね。「学力をつけることへの配慮」や「興味、関心を持たせ、学習意欲を引き出す」といった観点や、「言語活動を充実させる」という観点で見ると東京書籍を採択することでもいいのではないかと考えますが、よろしいでしょ

うか。

嘉名委員

少しいいですか。東京書籍がいいという話になっていますが、前回啓林館が採択された決め手は何だったのですか。

林選定委員

前は内容やボリュームについて啓林館と他社との差が大きいということでした。また、マイノートがついている点もプラス面とされていました。しかし、今回は内容やボリューム共に他社が啓林館に追い付いてきたり、マイノートも実際に使ってみて一長一短があることがわかりました。

澤田委員

マイノートについては、教科書の一部ということですから全部こなさなければなりませんよね。そうなれば問題の量が多く、全てをこなすには授業時間内では難しいこともあります。実際に、ある私立中学校でもこなすのが大変と聞いています。

嘉名委員

今の話で納得できました。それでは教育長、続けてください。

和田教育長

みなさんもよろしいですか。

それでは、理科の教科書として東京書籍を採択することによろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

和田教育長

それでは、理科の教科書として東京書籍を採択いたします。

引き続き、音楽科について、審議を始めます。選定委員から報告してください。

林選定委員

(別冊資料に基づき説明)

中学校教科用図書、音楽科の選定結果について報告いたします。選定対象は教育出版社と教育芸術社の2社となります。

まず、Bの(1)について、教育出版社2・3年下33ページでは、能について中央部分の綴じ込みページを利用して、大きく写真と図で説明しており、興味を引くよう工夫されています。また、続けて能の音楽を実際に体験するように設定されています。

次にBの(2)についてですが、教育出版社1年巻頭ページでは、ウィズマイハートとして活躍中の人生の先輩のメッセージを掲載し、音楽を通じた生き方を考えさせる内容を取り上げています。さらに、教育出版社2・3年下50ページでは、音楽著作権とインターネットについての内容を設定しており、MP3(エムピースリー)やインターネットの音楽配信などについて詳しく取り扱っています。教育芸術社2・3年上54ページをご覧ください。指揮をしてみようでは、生徒の発達段階や経験年数を考え、より高い表現力を身に付けることができるように工夫されています。

次にCの(3)についてですが、教育出版社1年49ページをご覧ください。鑑賞曲「ブルタバ」の曲に合わせて、楽譜と演奏されている楽器の写真を配置し、使用楽器をイメージしながら、鑑賞の学習を効果的に進めるものとなっています。

次にDの(1)についてですが、教育芸術社2・3年下12ページをご覧ください。前奏や伴奏の楽譜がついており、自分で演奏してみたいと感じた生徒は発展的な学習ができるように工夫されています。

次にDの(3)についてですが、教育芸術社1年6ページでは、ゲームを通して音楽記号やリズムに興味・関心をもてるように工夫されています。また、2・3年上20ページにありますように、作詞者や作曲者の思いを掲載し、楽曲の背景を理解してより深く味わうことができます。一方、教育出版社2・3年下64ページでは、音の三要素などが扱われており、生

徒の興味関心に応じて主体的に学習を進められるように配慮されています。また、教育出版社巻末の口絵ページでは、見開きのページを用い、オーケストラの楽器写真が一目でわかるように工夫されています。

次に、Dの（４）についてですが、教育出版社２・３年下２６ページをご覧ください。鑑賞曲の紹介文を生徒が作成することで、学んだことを活用する力や、相手に伝えるための表現力を養う言語活動が充実するように工夫されています。

林選定委員

続いて、器楽の選定結果について報告いたします。選定対象は教育出版社と教育芸術社の２社となります。

まず、Cの（３）について、教育出版社４８ページでは、綴じ込みのページを設定し、日本の楽器と音楽の年表を見開き３ページで確認できるように工夫されています。また、教育出版社１４ページでは、リコーダーの臨時記号などの運指図が楽譜の横に提示されていて、運指表を見なくてもわかるように工夫されています。

次に、Dの（２）について、教育出版社９０ページでは、西洋楽器と和楽器の合奏曲があり、多様な音楽活動が展開できるよう工夫されています。

次に、Dの（３）について、教育出版社３８ページでは、西洋楽譜を和楽器で演奏するために置き換えた譜面が挿入されたり、アニメのテーマ多様な楽曲を掲載したりして、生徒の興味関心を高めるために工夫がされています。また、教育出版社巻頭の口絵②では、コンピュータによる音源制作やレコーディングから作られる音楽の制作現場を取り扱われています。

以上で音楽科及び器楽の報告を終わります。

和田教育長

それでは、音楽科についての質問をお願いします。

澤田委員

後半の器楽については、教育出版社の説明ばかりだったように思います。教育芸術社の教科書のポイントも教えてください。

林選定委員

教育芸術社の口絵は、カラーで大きな写真や色彩豊かな写真を用いております。

前4ページ、後ろ5ページとカラーページが多い構成となっており、音楽につながる施設や楽器を紹介しています。様々な打楽器の演奏についても取り扱っています。

柴委員

音楽に大切である感性や情操を育てるのに適している教科書はどちらでしょうか。

和田教育長

どの教科書でも必ず扱われる歌唱曲がありますね。

林選定委員

例えば「赤とんぼ」はみなさんが知っている共通教材だと思います。教育出版社では1年の20ページでとりあつかわれています。教育芸術社では1年の24ページで取り扱われています。両社とも、夕焼けの中にトンボのシルエットの写真が大きくのっています。

作詞者・作曲者についての説明や作詞者三木露風の言葉がのっています。内容は同じですが、教育出版社の方がそれぞれ、より詳しく書かれていることがわかります。

柴委員

教育出版社の方は、桑の実とアキアカネの写真ものっていますね。最近の生徒は桑の実なんて、教えてもらわないと知らないかもしれませんね。

林選定委員

確かに教育出版社は他にも、写真などによるイメージ作りに特徴があります。

たとえば、「夏の思い出」という曲ですが、教育出版社の1年16、1

7ページをご覧ください。楽譜は18、19ページにあるのですが、その前に、イメージ作りとして尾瀬の写真や位置などが詳しくのっています。

同じ曲が教育芸術社の2・3年上12ページにあります。こちらの尾瀬の写真とは、扱い方がかなり違います。

阪谷委員

教育芸術社は歌詞をイメージする写真が少ないですが、その分生徒一人ひとりが曲を聴き、歌詞を読み取って、そこから自分のイメージを作っていくという意図なのでしょうね。

柴委員

どちらもそれなりの意図があると思うのですが、現在の子どもたちに合う方を選びたいですね。

和田教育長

現在の本市の子どもたちにとって、ビジュアルがたくさんあって、そこからイメージ作りをする教科書の方が良いのか、子どもたちのそれぞれの想像性を膨らませるほうがいいのか。どちらの教科書の方が良いのでしょうか。

嘉名委員

今の子どもたちにとって、歌詞だけで曲をイメージするのは、なかなか難しいのではないのでしょうか。「赤とんぼ」とか「夏の思い出」とか昔の情景の話は、今の子どもたちは経験がないので、ある程度の情報を与えてあげないと。シャクナゲや水芭蕉といわれてもわからない子どもたちも多いでしょうからね。さすがにトンボは見たことあるでしょうけどね。やはり、曲のイメージを作るために写真などがある方が、取り組みやすいと思います。

和田教育長

音楽については、器楽の教科書と合わせての採択になるので、器楽の教

科書について質問はありませんか。

澤田委員

小学校で学習した内容と、連続性を持たせていくことは大切なことだと考えます。

小学校で一人ひとりが必ず持っているのは、けんばんハーモニカとソプラノリコーダーですね。中学校ではどんな楽器を持つようになりますか。

林選定委員

中学校の学習では、アルトリコーダーを使用します。アルトリコーダーは一人ひとりが持っています。

嘉名委員

では、リコーダーの取扱いについて、それぞれの特長はどうなっていますか。

林選定委員

どの教科書もタンギングやサミングなど、リコーダーの基本的事項から学習しますが、教育出版社では、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーのどちらでも取り組めるようになっております。ソプラノとアルトの二重奏できる楽曲も掲載され、小学校で学んだソプラノリコーダーからの連続性を持たせています。

また、運指表をすぐ横につけてあり、巻末で調べなくてもいいように細かい配慮がされています。

澤田委員

器楽については、生徒が音楽の授業時間だけで習得するのは難しいですよ。

自分自身や生徒同士がグループで学び合い、練習を継続することが重要だと思います。そのような視点から見たとき、それぞれの特長はありますか。

林選定委員

教育芸術社では46ページに打楽器についてのページがあります。いろいろな打楽器について、奏法や練習がのっています。合奏をするときなど、生徒が学び合うために活用できるよう配慮されています。

阪谷委員

中学生になれば、ギターに興味を持ち、自分で気に入った曲を弾いたりするでしょう。ギターのコード表なども、掲載されていましたね。

林選定委員

教育芸術社では、巻末に掲載しています。

教育出版社も、巻末にあります。綴じ込みのページになっています。

教育出版社は1つずつ、指の押さえ方の写真がついているのが特長です。

嘉名委員

中学生の時期は、ギターに興味・関心をもつ生徒が増えてきますから、このコードの写真はいいですね。

生徒が自分で流行の曲の楽譜を調べて、このコード表を見ながら弾けますね。

和田教育長

「音楽一般」と「器楽」の特長はわかりましたが、林委員は音楽科を専門とされていますが、音楽の教師の視点からではどうでしょうか。

林選定委員

教育芸術社は、前奏や伴奏が詳しく載せてあったり、イメージを生徒自身に作らせたりするなど、音楽性を大切にしている、より専門的な教科書だと思います。教育出版社は、視覚にうったえる表現が多く、経験が少ない生徒にも、写真などでイメージを作らせやすい教科書だと思います。ベテランの教員の中には、写真が掲載されていることが、かえって想像性を膨らませるのに邪魔になるという方もいますが、これから世代交代が進み、

経験の浅い教員が増えてきますからね。

和田教育長

体験が少なくなっている子どもたちのことや、教える教員もこれからどんどん若年化することを考えると、教育出版社がより実態にあっているとのことで、音楽については、教育出版社を採択してよろしいですか。

委員一同

異議なし。

和田教育長

それでは、音楽は教育出版社に決定します。

引き続き、社会科（地理的分野）について、審議を始めます。選定委員から報告してください。

三並選定委員

（別冊資料に基づき説明）

中学校教科用図書、社会科・地理的分野について報告いたします。対象は東京書籍、教育出版社、帝国書院、日本文教出版の4社です。

まず、Bの（1）についてです。4社とも東北地方の学習の中で、伝統文化を紹介しています。東京書籍244ページから248ページをご覧ください。東京書籍では、民俗行事や夏祭りの写真を掲載するだけでなく、主な夏祭りの日程についても紹介しています。帝国書院248ページをご覧ください。帝国書院では伝統行事の写真に加え、東北地方のおもな祭りの日程を紹介しています。

Bの（3）について、特に帝国書院に特長が見られます。帝国書院88、89ページをご覧ください。世界地理の学習において、最初のページに大きな写真を多数掲載し、国旗もわかるように工夫されています。また、帝国書院63ページもご覧ください。「学

習をふりかえろう」の中では、書き込み作業をしやすい白地図が掲載されています。

続いてBの(4)についてです。教育出版社の〈巻頭5〉では、触れて読む地図について、「公園に設置された点字案内板」や「触る地球儀」を紹介しています。実際の点字にも触れることができます。

Cの(3)について、帝国書院では、184、185ページのように、本文中の番号と、写真の番号と地図中の番号がリンクしており、理解を深めるための工夫が見られます。

次にDの(1)について、東京書籍では、9ページなどのように「地理スキルアップ」で、地理的スキルを身につけられるように工夫され、「鉛筆マーク」では、学習をより深めるよう配慮されています。帝国書院7ページをご覧ください。「技能をみがく」のなかで、地理的スキルを身につけることができるように工夫されています。さらに、「トライアル地理」では学習の発展を図ることができるように設定されています。日本文教出版11ページでは、「スキルアップ」で地理的スキルを身につけることができるように設定されています。また日本文教出版66ページをご覧ください。「自由研究」では、発展的な学習に活用できるよう現代の課題が取り上げられています。

続いてDの(3)についてです。東京書籍では133ページのように「地理にアクセス」で、本文での学習をくわしく説明したり、関連する内容を取り上げたりしています。

教育出版社275ページをご覧ください。統計ページに、各都道府県の中学生の生徒数が掲載されています。帝国書院93ページをご覧ください。「羅針盤マーク」のなかで、未来の社会をつくるために参考になる取り組みが紹介されています。また、日本文教出版71ページにありますように、「地理+α」で学習内容に沿うコラムが掲載されています。

最後に、Dの(4)です。東京書籍29ページ、ページの右下の「確認マーク(机)」をご覧ください。このマークでは、学習し

た内容を確認したり、深めたりする課題が設定されています。

教育出版社102ページにありますように、教育出版社には「学習のまとめと表現」があり、四角2のように表現力を高めるように設定されています。帝国書院109ページ「学習をふりかえろう」の四角2のように「説明しよう」や四角3のように「探究しよう」で学習した内容をまとめる活動が設定されています。

以上で社会（地理的分野）の選定報告とさせていただきます。

和田教育長

それでは、社会（地理的分野）について、ご質問願います。

嘉名委員

地理的分野の学習では、地図や地球儀を使った学習が欠かせないと思うのですが、その点で、特長的な教科書はありますか。

三並選定委員

はい。この点に関しまして、4社とも工夫が見られます。特に、帝国書院8ページをご覧ください。このように、東半球・西半球、北半球・南半球がわかるよう線に色をつけて提示しています。

柴委員

地理は暗記科目という印象が強いです。それに、中学生になると学習内容が増えますよね。中学生になって「地理」でいきなりつまずいてしまうと、社会科嫌いになるかもしれません。「地理」に対して興味・関心が高まり、意欲を持って主体的に学習できる配慮がみられる教科書があれば、教えてほしいのですが。

三並選定委員

はい。たしかに「地理」という分野は、覚えなくてはならないことが多い教科です。一度つまずいてしまうと、苦手意識を持ってしまう傾向が強いのは事実だと思います。

東京書籍と帝国書院は、どちらも世界の各州を学ぶ導入部分で工夫がされています。東京書籍44ページをご覧ください。アジアやヨーロッパの衣食住や文化について、ピックアップで紹介し、その地域に興味をもつことができるよう工夫されています。帝国書院、34ページ、35ページをご覧ください。帝国書院では、写真の中にその国の「国旗」が表記され、どの国の写真かがわかるように工夫されています。

柴委員

これは、よくわかりますね。2社とも写真を見ていて楽しいですし、これから学習する地域が大観できて、興味がわきますね。

三並選定委員

また、帝国書院35ページにある「探してみよう」をご覧ください。写真の番号と地図の番号がリンクしており、さらに、その国のどのあたりで撮られた写真なのかもわかるようになっています。また、赤字で表された数字はのちの学習で出てくるページとなっています。

阪谷委員

写真もそうですが「地理」なのだから、地図も大事ですよ。私は帝国書院52ページがいいなと思っています。この教科書には、地図の中に同縮尺の日本地図が掲載されており、面積について視覚的にとらえることができます。

和田教育長

興味・関心を引き付けるために写真や地図も大切ですが、地理の学習においては、地図の読み取り方や地形図の活用の仕方なども大切だと思います。小学校からの積み重ねが大切ですが、これが定着しないと、先ほど柴委員がおっしゃっていたように、地理の学習につまずいたり、地理嫌いになったりしてしまうと思うん

ですよね。

そのような意味で、三並選定委員の報告にもありましたが基礎的・基本的な知識や技能の習得について、特長的な教科書があれば、詳しく教えてください。

三並選定委員

各社ともに、地理の技能の向上をめざしたページを設定しています。東京書籍では22ページ「地理スキルアップ」のように基礎的基本的な技能を身につけるコーナーが掲載されています。次に、教育出版社では6ページなどで紹介されている「地理にアプローチ」です。地図やグラフなどの見方を確かめるコーナーとなっております。帝国書院も15ページ「技能をみがく」で基礎的スキルを身につけるコラムがあります。日本文教出版は35ページをご覧ください。「スキルアップ」の部分なのですが、ここでは「グラフの読み取り方」が掲載されています。

4社とも地理の技能が無理なく体系的に習得できるとともに、様々な場面で活用する能力を獲得することができるよう工夫されています。

阪谷委員

地理を学習するうえで、地図というのは重要なポイントのひとつです。先ほどの選定委員の報告の中にも紹介されていましたが、地図の読み取りや作図は地理的な見方や考え方を育む上でも必要不可欠な能力であると思います。

澤田委員

話題を少し変えていいですか。

私は、地理の学習において、やはり、日本の位置であるとか領土についてなど、我々の国のことについて当然知っておかなければならないと思います。

前回も話題になりましたが、領土問題については、子どもたち

に、正しい知識をきっちりと教えていかなければならないと思います。公民でも話題になるのですが、このことに関して各社はどのように扱われていますか。

三並選定委員

はい。領土に関する内容については、各社とも取り扱われています。まず、領土問題に関して、日本政府の見解は、「北方領土と竹島においては領土問題があるが、尖閣諸島をめぐって解決しなければならない領有権の問題はそもそも存在しない」とされています。

領土問題は4社とも本文中に取り上げています。北方領土については、4社とも「日本固有の領土」「不法に占拠」と記載されており

ます。竹島について特長的なところは、帝国書院、日本文教出版です。2社とも本文で独立して取り上げられています。帝国書院は126ページ、127ページで紹介しています。昭和初期の写真を使って説明されて、日本の領土であることがよくわかります。日本文教出版では、118、119ページで紹介されています。特に118ページの地図では位置が一目でわかるようになっております。

どちらとも日本が国際司法裁判所に提訴していることや韓国側が日本の提案を拒否していることも記載されています。

澤田委員

尖閣諸島については、どうでしょうか？

三並選定委員

はい。尖閣諸島につきましても、帝国書院日本文教出版は独立して取り上げております。

帝国書院は「そもそも領有権の問題は存在しない」、日本文教出版では「領土問題は存在しません」と明記されています。帝国

書院 1 2 7 ページ、日本文教出版 1 1 9 ページの中で、海上保安庁との写真が掲載され、日ごろの報道と学習が結びつきやすくなっております。

阪谷委員

領土に関する正しい知識は、これからの時代を担う子どもたちにとって、非常に大切なことだと考えますので、この部分は是非しっかりと教えてもらいたいですね。

三並選定委員

はい。

和田教育長

ここまで聞いて、どれもよい内容になっていることがよくわかりました。帝国書院の評価が高いのはどういうところですか。

三並選定委員

はい。帝国書院 1 4 0、1 4 1 ページをご覧ください。調査員の段階から、注目されていたところです。地形図と空中写真が上下に掲載されています。地図を発行している帝国書院だからこそできるページかと調査員からも話題になっておりました。

和田教育長

本当に、わかりやすくなっていますね。他に、ご意見はございませんか。

澤田委員

それでは、観点を変えてみましょう。各社とも学習の終わりにまとめがあるようですが、特長的な教科書を教えてください。

三並選定委員

はい。東京書籍帝国書院に特長が見られました。世界地理で比べますと、

東京書籍では、114ページのように、「各州の学習をふり返ろう」があります。そこで語句をふり返ったり、自分の言葉でまとめたりする設問があります。①で語句の確認、②でカッコを埋めたり、説明したりする問い、③では、自分で選択し、説明するというようにバランスよく活動できるような内容になっています。

より特長的なのが帝国書院です。48ページ49ページをご覧ください。「学習をふりかろう」のなかで、1番は、「確認しよう」で白地図を使ってふりかえることができます。白地図なので書き込みや色分け等にも活用できます。2番は「説明しよう」で、言葉で表にまとめる問題が2つあり、スペースもゆったりととられています。3番は「探究しよう」で興味をもったことや疑問に思ったことをふりかえるように設定されています。

活用力や表現力を育み、なおかつ、ふりかえりが十分できるのは帝国書院ではないかと思います。

嘉名委員

そうですね。「確認しよう」では、ふりかえるページがすぐそばにあるのもいいですね。

あと、気になっているのは、過疎化などの現代の問題ですが、そのことには触れられていますか？

三並選定委員

はい。過疎化については、各社とも触れられています。4社とも中・四国地方の学習で取り上げられています。東京書籍では、198ページ、199ページをご覧ください。中国・四国地方の地図で色分けされ、人口増減率がわかりやすくなっています。また広島市と四万十町の人口ピラミッドがあり、比較しやすくなっています。教育出版社でも178ページから181ページに記載されています。教育出版社では179ページの中で、2つの地図から人口増減率を読み取るようになっています。帝国書院では192、193ページの、③や⑧の観光客数を表すグラフが興味深いです。日本文教出版では、188、189ページで取り上げられ、地図だけでなく、グラフで限界集落の数が表されています。買い物弱者やNPOの活動

を紹介しています。192ページの「地域からのメッセージ」の中で、コミュニティバスや第3セクターを詳しく紹介しています。

嘉名委員

わかりました。現代の問題で、やがて、私たちの周りにも降りかかってくる問題でしょうから、生徒たちには、しっかりと学習していただきたいです。関連して、「町おこし」なども紹介されていますね。神山町のような例もマスコミでとりあげられていますね。これは、ふるさとの良さも学ぶことにもつながってきます。

和田教育長

それでは、ずいぶんご意見をいただきましたので、地理的分野の教科書の採択を行いたいと思います。各社とも、本当に、よいところがたくさんありました。その中で、写真を活用しやすいところや領土問題、ふりかえりの点からも、帝国書院のよさが僅差で勝っていたように思いますが、地理は帝国書院でよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

和田教育長

では、社会科・地理的分野は帝国書院を採択いたします。

引き続き、社会科・公民的分野について、審議を始めます。選定委員から報告してください。

三並選定委員

(別冊資料に基づき説明)

中学校教科用図書、社会科・公民的分野について報告いたします。対象は、東京書籍、教育出版社、清水書院、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社の7社です。

まず、Bの(1)について、「伝統文化を大切にし、ふるさとの

つながり」を取り上げ、学習の興味関心を高めているのが、帝国書院、育鵬社です。帝国書院は16ページ、17ページ「文化の継承と創造」の中で、伝統を受け継ぐ中学生を紹介しています。育鵬社は24ページから「日本の伝統文化」について写真を使って、たくさん紹介しています。28ページをご覧ください。また、2社とも家族についても明記されています。育鵬社19ページには郷土、郷土愛も取り上げられています。

次に、Bの(4)についてです。各社さまざまな人権問題について取り上げています。東京書籍では50ページ、51ページのなかで中学生の人権作文を2例紹介し、人権問題に対して、考えを深めるようにしています。帝国書院51ページをご覧ください。現代の人権問題について、「羅針盤マーク」の中で、子どもを守るためのオレンジリボンや児童虐待相談について紹介されています。

自由社163ページ、育鵬社182ページ、183ページでは、日本人拉致事件について紹介されています。

Dの(2)について、教育出版社では、58ページや102ページなど「言葉で伝えよう」の中で、ディベートやシミュレーションなどの多様な学習方法が示されています。帝国書院では、57ページにあるような「技能をみがく」のなかで基本的な学習や多様な学習方法を紹介していますし、144ページなどの「トライアル公民」では、意見をまとめたり、話し合ったりして学習をさらに深める内容になっています。

また、Dの(3)について、帝国書院では、40ページのような「クローズアップ」では、これから学ぶ内容に関する実社会の事例が紹介され、同じく帝国書院53ページなどの「Yes、No」では、学習したテーマについて賛成・反対の意見が紹介されています。育鵬社では44ページのように「〇〇の入り口」が第2章から第5章の始めに配置され、各章の導入になっています。

次に、D(4)では、東京書籍88ページなどの「えんぴつマーク」では学習を深めるための作業や活動が紹介されています。また帝国書院125ページなどの「説明しよう」では、学習した

内容を踏まえ、自分の言葉で説明する作業を取り入れています。

Dの(5)では、ふりかえりについて特長的なところが見られました。東京書籍は、116ページなどの「この章の学習を確認しよう」では、用語の確認のページがまとめられており、問題形式で知識を復習しやすくなっています。教育出版社は、72ページ「学習のまとめと表現」で学習のまとめと表現力を高める課題が設定されています。帝国書院では、146、147ページのように2ページにわたっています。章末の「学習をふりかえろう」で「確認しよう」と「説明しよう」に分けてまとめられており、問題形式で復習しやすくなっています。自由社では56ページなどで、「学習のまとめと発展」で最重要語句の確認ができ、学習の発展では、「400字でまとめてみよう」という課題になっています。育鵬社は、82ページ「学習のまとめ」でわかりやすくまとめられており、問題形式で復習しやすくなっています。

以上で社会科・公民的分野の選定報告とさせていただきます。

和田教育長

それでは、社会科・公民的分野について、ご意見をお願いします。

柴委員

中学の社会科では、小学校の社会科と比較して覚えることが格段に多くなっていますが、ところで、基礎基本を大切にしたり、活動を通して学習を深めたりするような教科書はありますか。

三並選定委員

はい。東京書籍は49ページなどの「公民にチャレンジ」で本文の学習を深めるために、個人やグループで行う作業や活動が紹介されています。

帝国書院は、26ページ「技能をみがく」の中で、公民の基礎的な技能を身につけるコラムとして紹介されています。82ページ「トライアル公民」では、章の終わりに設けられています。段階を踏みながら友達と協力して考えるように設定されています。個人で考え、グループで話し合い、

関連ページでふりかえるように設定され、学習を深める工夫がされています。日本文教出版では71ページのように教科書の理解を助けるコラムとして「公民プラスアルファ」が設けられています。

和田教育長

先日、選挙について、18歳から選挙権が得られる法律改正についての報道がありました。選挙に関する学習で、特長的な教科書はありますか。

三並選定委員

はい、東京書籍は、72ページ、73ページに特設ページを設け、「だれを市長に選ぶべき？」と題して紹介しています。身近な話題から選挙について、自分の考えをもたせたり、グループで考えさせたりしています。また、77ページの「公民にチャレンジ」では「多数決について考えよう」や「選挙シミュレーション」と題して、選挙について考えるコーナーを設けています。80ページには、「日本の主な政党」の党首の顔写真を掲載して紹介し、興味をもたせています。また、帝国書院63ページをご覧ください。「羅針盤コーナー」で「ネット選挙の解禁」が紹介されています。現代的な選挙の形ですが、現在、中学校で学ぶ生徒たちもこの形で選挙に参加するのではないかと思います。タブレット端末を使い、選挙がより身近になるのではないのでしょうか。

日本文教出版79ページには、「アクティビティ」の中で、選挙制度が紹介され、小選挙区・比例代表制のメリット、デメリットが記載されています。育鵬社の84、85ページをご覧ください。「政治の入り口」で議員の考え方を読んで、どの党に投票するかを考えるコーナーになっています。政治を学ぶ意義も紹介されています。

和田教育長

各社とも工夫があるんですね。わかりました。選挙制度についてはここ最近、話題になっていることですし、これからの日本を担う中学生にはしっかりと知っておいてもらいたい内容です。この学習を通して、選挙や政治が生徒に「身近なもの」と感じてもらえるようになってほしいと思います。

柴委員

「ふるさと」を考える一つの要因として、「家族や郷土」がありますが、その点についてはいかがですか。

三並選定委員

はい。その質問では答申にも取り上げているように2社に特長が見られました。まず、帝国書院では、18、19ページをご覧ください。「クローズアップ」では、人気歌手の歌詞がとりあげられています。生徒たちの興味関心が得られるところです。家族の役割や「愛情と信頼の関係」「団らん」など家族のきずながよくわかるように説明されています。育鵬社では18、19ページを見てください。「家族は、愛情と信頼で結ばれた、最も身近な共同体」という言葉が印象的です。地域社会や、郷土愛についても触れられています。

柴委員

なるほど、この2社は特長的ですね。家庭や家族の大切さや、地域や郷土についても取り扱っている育鵬社はいいですね。

阪谷委員

安全保障関連法案や憲法第9条について話題になっています。「日本国憲法」「戦争」などについて特長的な教科書はありましたか？

三並選定委員

このところ連日、マスコミでも報道されているところですね。各社とも掲載されております。そのなかでも、6社に特長がありました。東京書籍42、43ページをご覧ください。「日本の平和主義」が取り上げられています。「公民にアクセス」では「集団的自衛権」「沖縄の米軍基地」についても取り上げられています。教育出版社では、66ページをご覧ください。このように平和主義の学習があり、米軍基地や自衛隊の活動などが資料としてわかりやすく掲載されています。70、71ページでは「読んで深く考えよう」で、国際社会の厳しい現実と平和主義と題して現在の問題を投

げかけています。語り部の活動も修学旅行で体験したことを思い出すことができます。帝国書院40ページは、広島・長崎両方の平和祈念式典が写真で紹介されています。本市の中学校の修学旅行の活動も想起できる写真で平和教育がつながる場面だと思います。同じく帝国書院181ページをご覧ください。沖縄の基地問題に触れ、「資料活用」が盛り込まれ、深く考えられるように設定されています。「解説」では「集団的自衛権」を取り上げています。現代の問題をたくさん含んだ学習内容になっています。日本文教出版では、68ページに第9条が明記され、71ページの「公民プラスアルファ」で「沖縄と基地問題」を取り上げています。育鵬社でも57ページに「集団的自衛権」、59ページに「沖縄と基地」について記載されています。

阪谷委員

6社ともいいですね。内容も充実しています。

澤田委員

先ほど、地理のところでも話題になりましたが、領土問題について、公民ではどのような取り扱いになっていますか。

三並選定委員

はい。まず政府の見解をまとめてみますと、「北方領土・竹島と、尖閣諸島とでは、取り扱いが違っており、尖閣諸島については領有権の問題はそもそも存在しない」という立場をとっています。

すべての教科書において、北方領土、竹島、尖閣諸島について記載されています。特長的なのは東京書籍です。196ページ、197ページ「公民にアクセス」の中で詳しく取り扱っております。竹島・北方領土・尖閣諸島とも、歴史的背景に触れた説明や、近年の状況についても紹介されています。帝国書院では、168ページ、169ページで紹介されています。「日本の排他的経済水域」を表す地図のなかで、周辺国について国旗とともにわかるように工夫されています。明治30年代の写真が掲載され、日本人

が定住していたことがよくわかります。育鵬社も177ページの地図の中で詳しく取り上げられています。178ページ、179ページ「理解を深めよう」では、歴史のなかで、日本人が北方領土や尖閣諸島に住んでいたことがよくわかる写真や資料が記載されています。

澤田委員

各社とも工夫されていますね。「国際司法裁判所」などもきちんと取り上げて説明されているんですね。

三並選定委員

おっしゃるとおりです。本当に大切な内容がどの教科書にも盛り込まれていて、「近い将来、日本を背負う生徒たちに」と考えると、どの教科書もよくまとめられています。

阪谷委員

公民は、地理・歴史分野はもちろんのこと、現代社会の事象にまで幅広く学習していかないといけないのですね。学習のまとめのところでは、いかがでしょうか。

三並選定委員

はい。やはり各社とも工夫が見られますが、本市の目標に沿ったものは3社ありました。まずは東京書籍の32ページをご覧ください。「この章の学習を確認しよう」のなかで、①は用語の意味について説明させています。語句のわからないものは、もどって確認しやすいようにページも明記されています。②は①を使ってカッコを埋める問題になっています。③は「説明しましょう」など言語活動をともなう学習活動でまとめをさせています。言語活動の充実を図ろうとしている本市の目標に合うと思います。このような振り返りが各章末に計5回掲載されています。帝国書院では、58、59ページ「学習をふりかえろう」の中で、1番は「確

認しよう」で書き込みや語句の選択問題があります。2番は「説明しよう」というように構成されています。書き込みもできるように工夫されています。また、「学習の前にふりかえろう」や「次の部への準備」も掲載されており、学びのつながりが意識されています。このような振り返りが第4部までの中で9回あります。育鵬社も42ページのように「学習のまとめ」で重要語句の確認をし、1番2番はカッコを埋める問題、3番は「説明しよう」になっています。このような振り返りが各章末に4回あります。

和田教育長

それでは、いろいろ議論してきましたので、そろそろ採択しなければならないのですが、これまでのやりとりを聞いていると、各社とも創意工夫が見られ、甲乙つけがたいところです。

嘉名委員

選定委員会答申をみても、東京書籍、帝国書院、日本文教出版、育鵬社の4社は同程度の評価になっていますね。

阪谷委員

もう少し、時間をいただいてもいいでしょうか。私は、育鵬社181ページの国歌のところがいいコラムだと思うんです。ここでは、日本の国歌、「君が代」の意味について、詳しく紹介されています。そのうえで、アメリカやフランスなど他の国も並列して紹介しています。国歌の大意を目にすることもそうないことだと思うので、とてもいいコラムだと思います。ほかにも、育鵬社194、195ページには東日本大震災を通しての日本の絆、世界の絆が紹介されています。「自分を犠牲にし、住民を守った公務員」や「感動を与えた日本人の秩序」など、日本人の素晴らしい心遣いや行いが紹介されており、郷土に誇りを持つ意味で、ぜひ、中学生に学んでもらいたいところです。

嘉名委員

阪谷委員がおっしゃった国歌の話なのですが、育鵬社は各国の国歌が並べられていたり、他のところでも、他の国はどうかということが並列的に並べられていたりして、グローバルな視点が見られますね。

また、育鵬社の2、3ページに公民を学ぶ意義が示されています。これはすごく重要だと思います。他社と比較してみても地理・歴史とのつながりがよくわかるようにも示されています。なぜ公民を学ぶのか、なぜ大切なのか、ここに明記されています。将来社会に出た時に、社会人としてあるいは国民としてどうあるべきかを学ぶためにも、このページの意義はとても大きいと思います。さらに、次のページにはこれらをふまえて、自分の人生を考えましようといった内容にも触れられていて、そういう意味でも公民という教科の特徴をあらわしているのも好感が持てます。

柴委員

確かに、中学生にとって公民を学ぶ意味やなぜ公民という教科が必要なのかを説明することは非常に重要だと思いますし、その意義を示していることは良いことだと思います。

その次のページにある「人生モノサシ」では自分の将来設計を考えられるよう、うまく工夫されていますね。これはキャリア教育につながる大事な部分ですよ。

阪谷委員

もう1か所、いいですか。表紙裏に「私たちを取り巻く課題」が写真とともに紹介されていますよね。今すぐ解決しないかもしれないけれど、子どもたちに現在の社会の課題を投げかけることが大事で、そのことを認識して、考えさせることこそが大事だと思います。

澤田委員

考えさせることが大事ということであれば、今話題になっている憲法改正についても、そうです。他の教科書では、仕組みや手続きを中心に紹介しているのに対して、育鵬社は焦点となる課題についても子どもたちに考えさせる機会をつくっています。これこそが大切だと思います。

阪谷委員

育鵬社は、国会でも議論されている9条関係などの取り扱いについても、内容を見る限り、大きく偏った教科書ではないと思います。

和田教育長

公民の教科書選定については選定委員会及び事務局の皆さんに、東京書籍、帝国書院、日本文教出版、育鵬社の4社についてはこの間、特に細かい記述に至るまで相当な時間を割いて検討してきていただきました。

私も普段から思っていることなのですが、戦後70年間、日本は科学技術を発展させ、国民生活を高め、世界でも類を見ないほどに成熟した社会を作り上げてきました。ただ、その裏で、科学の進歩や文明を追い求めるあまり、古き良き伝統・文化が衰え、「個」が強調されるあまり、社会の基本的なルールやきまり、社会性がないがしろにされてきた部分は、否定できないと思っています。例えば、家族のきずなが希薄になり、地域の孤立、地域のつながりが薄れてきたことなどです。そのため、60年ぶりに改正された教育基本法に基づいて、今本市ではそこに重点を置いて、古き良き伝統や文化を大切にし、郷土を愛する態度を子どもたちに育てようと、「ふるさと学」をはじめ、家庭、地域とのつながりを大切にした教育方針を掲げてきました。そのような部分に焦点を当てれば、先ほどの議論にもあったように、どの教科書にも家族について、取り扱っているのですが、やっぱり、育鵬社の扱い

方が、他社とは違って重みがあるように思います。本市の子どもたちにふさわしいのはどこの教科書か考えると、私は育鵬社になってくるかと思います。

澤田委員

私も同感です。家族愛や郷土愛について、よく読ませてもらうとずいぶん違う。表現方法や記述方法の違いにもよるのですが、育鵬社には深みを感じます。日本の社会の中で、崩壊しつつある家族愛や郷土愛を今こそ大事にしないといけないと思います。本市もこのことを踏まえて、教育方針に「ふるさとのつながり」を大切にしてきたわけで、そのことを踏まえても育鵬社がよいと思います。

柴委員

高度経済成長の時代は、「働け！働け！」で、結果的に世界のトップクラスにまで発展しました。でも一方で、私も失ったものがあると常々思っていました。私は国際交流事業に参加し、ホームステイ先を紹介することがあります。日本をホームステイ先にする場合にも、ホームステイ先の情報収集を行います。以前の日本にあった良き習慣、例えば「向こう三軒両どなり」という言葉に代表されるような、相互扶助の精神が失われつつある、そういったことが、外国人の視点から見たときに気付かされることがあります。相互扶助の精神の喪失が家族崩壊や地域のつながりを失ってきた原因のひとつであると思います。ところが、大震災を契機に家族のきずなや地域のつながり、人と人とのつながりが見直されていますし、その重要性が再認識されてきたところです。育鵬社はその部分に重点をおいているように思います。

和田教育長

これまでのご意見を聞いていますと、多面的、多角的という表現は、社会科（歴史、地理、公民）の全てで使われてきた言葉で

すが、確かに指導法・考え方としては、大切にしなければならないということはみなさん共通した認識を持っていると思います。

ただ、例えば高校生への意識調査で「自分自身に自信を持っているか」という質問に対し、中国やアメリカの高校生が8～9割が持っているのと答えたのに対し、日本の高校生は3割強しか持っているとは回答しなかった。このことは、私たちが戦後教育の中で「個人」や「公平性」に重心をおいてやってきた結果のあらわれであるのかもしれませんが。

それは戦後教育の大きな成果なのですが、一方で、今の時代の子どもたちを考えると、社会人としての「公民」の大切さや、人のつながりの大事さや伝統文化やふるさとや家族の大事さについて、重心をかけなければならない時期にいるという思いは委員全員が共有しているように思います。子どもたちの現状や、河内長野市の教育が重心をかけている「ふるさとのつながりによる教育」を考え合わせると、育鵬社を採択することが適切ということになるんですが、この分野については、市民から採択がふさわしいふさわしくない両方の声があり、当然、さまざまな価値観は必要だと思いますが、先ほど述べた点、「公民」を学ぶ意義が明記され、現代の課題を生徒に考えさせることに力点をかけているという点で、公民は育鵬社を採択することによろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

和田教育長

では、社会科・公民的分野は育鵬社を採択いたします。

引き続きまして、技術・家庭科、家庭科分野を審議します。選定委員から家庭科分野について報告してください。

三並選定委員

(別冊資料に基づき説明)

中学校教科用図書、技術・家庭科、家庭科分野についての選定報告を致します。

選定の対象は、技術科分野と同じく、東京書籍、教育図書、開隆堂の3社でございます。

まず、Aの(2)についてです。開隆堂8、9ページをご覧ください。開隆堂ではガイダンスにおいて、家庭分野に関する学習の基本的な考え方として「人やものとかかわりながら学ぼう」を大きく掲げ、また、課題をもって生活を豊かに創造していく力を身につけることができるよう学習サイクルを2ページにわたり大きく取り扱っています。

次に、Bの(1)について、東京書籍84ページから89ページをご覧ください。東京書籍では、地域の食材について調べる活動から地産地消、地域の伝統野菜、郷土料理、行事食の流れで学習を進めています。開隆堂130から133ページをご覧ください。開隆堂では、地域の食材と食文化から郷土料理を学習するようになっていました。また、開隆堂134ページにありますように「受け継がれる食文化」として行事食、そしてユネスコの無形文化遺産として登録された「和食」を取り上げています。

次に、Bの(4)について、3社とも男女共同参画社会について触れ、男女共生について取り上げていますが、特に開隆堂は、17ページ「探究」において、家庭・社会ともに男女が協力して支えることを詳しく取り上げています。また、男性の育児休業についても紹介されています。

続いてCの(3)についてです。東京書籍36、37ページをご覧ください。東京書籍では、「手ばかり・目ばかり」として、25gと50gの野菜や果物の実物の大きさを提示しています。教育図書は80から82ページをご覧ください。教育図書では、食品群別摂取量の目安で、1回に食べやすい量や調理しやすい量の目安が示されています。開隆堂は、73、74ページをご覧ください。食品群別摂取量の目安で1回に食べやすい量や調理しやすい量の目安が示され、さらに、開隆堂では、75ページから77ページに野菜や肉、魚等の実物大写真とおよその重さを表示し、およその大きさ、重さのイメージを持つことができるよう工夫されています。

次に、Dの(4)についてです。3社とも言語活動に関する学習の記載について配慮されていますが、特に開隆堂260ページをご覧ください。

開隆堂では4ページにわたって「言語活動の充実のために」が設けられています。

最後にDの(5)について、東京書籍270、271ページをご覧ください。東京書籍では、「言葉のページ」を設け、家庭分野でよく使われる用語について説明されています。教育図書は、142ページをご覧ください。このように「学習のふり返し」において 解答欄をページ右側に設け繰り返し学習ができるように工夫されています。また、理由を書く等記述を問う問題が他社より多く設定されています。開隆堂154ページをご覧ください。開隆堂では、「学習の目標」を明示し、目標に対応した内容をスモールステップでふり返し、開隆堂157ページにありますように、自分で評価できるように工夫されています。

以上をもちまして、家庭分野の選定報告とさせていただきます。

和田教育長

では、家庭分野についての質問をお願いします。

柴委員

家庭科といえば、やはり「食育」のイメージが大きいですね。食を通じて地域を理解することや、食文化の継承を図ることも重要だと思います。本市では昨年度「くろまろの郷」がオープンしました。「地産地消」を通じて地域とのつながりや「食」の伝統文化を学ぶことができる教科書はありますか。

三並選定委員

はい、「地産地消」については、2社が写真入りで紹介しています。東京書籍は84ページで、地産地消給食について紹介しています。開隆堂138ページでは「地域の気候を生かして、地産地消に取り組む」というタイトルをつけて紹介しています。スクリーンをご覧ください。比べてみますと、「地産地消」については、開隆堂が大きく取り上げていることがわかります。

澤田委員

河内長野市では新米の季節に、河内長野産のお米が給食に出されています。まだまだ量としては少ないですが、「くろまろの郷」でも「河内長野産」の野菜が並べられ、「地産地消」が意識されるようになってきていると思います。河内長野市といえば小山田の「桃」が有名ですし、大阪で言えばなにわ伝統野菜が有名です。子どもたちには自分たちが住んでいる河内長野や大阪を誇りに思う、そんな人に育ってほしいと思っています。

阪谷委員

今、澤田委員のお話に出てきた「なにわ伝統野菜」を扱っている教科書はあるのですか。

三並選定委員

はい、2社あります。東京書籍では85ページ「プロに聞く！」で、天王寺蕪、田辺大根、泉州水ナスを使って漬物作りをしていることが紹介されています。近畿圏では、地域の伝統野菜として京都府の「京野菜」や奈良県の「大和まな」が写真つきで掲載されています。開隆堂裏表紙をご覧ください。大阪府・香川県の伝統野菜として「金時にんじん」が紹介されています。子どもたちは、小学生の時に「金時にんじん」が入ったお雑煮を給食で食べていますので、金時にんじんについてはよく知っています。

阪谷委員

伝統野菜も大切だと思いますが、ユネスコの無形文化遺産として登録された「和食」についてはどうですか。

三並選定委員

はい、東京書籍では、41ページに献立の資料として「一汁三菜」を紹介しています。開隆堂では135ページのように「日本の伝統的な食文化」として四季折々の和食を大きく紹介しています。

和田教育長

日本には四季があります。日本に住んでいれば四季は当たり前ですが、四季があるということはとても素晴らしいことです。「食」と季節、四季とは切り離せないですね。日本の伝統的な食文化は是非学んでもらいたいです。

嘉名委員

ところで、話は変わるのですが、東京書籍の表紙を見ると、「自立と共生を目指して」とあります。私は、「自立と共生」はこれから社会に出ていく子どもたちにとって、とても大切なことだと思っています。

澤田委員

わたしも同感です。「自立」するためには、自分で考え、判断し行動できなければなりません。「困難なことにぶつかったときに、自分で課題を見つけ、持てる力を駆使して解決する、また解決したことを評価して改善する」ことのできる人に育ってほしいものですね。

嘉名委員

「共生」については、どうですか。

三並選定委員

東京書籍開隆堂では、家庭分野で学ぶ4つの領域のうち3つの領域で、地域との関わりについて取り上げています。特に開隆堂8、9ページでは、ガイダンスにおいて、家庭分野に関する学習の基本的な考え方として、「人やものとかかわりながら学ぶ」ことを明示しています。開隆堂では、18、19ページの写真にありますように、地域の子どもや高齢者、外国の人との交流について、地域の人々との防災訓練などを取り上げ、地域や人とのつながりを意識させ、「共に生きる」ことを具体的に示しています。

柴委員

私は外国の人と関わることが多いのですが、生活習慣や文化は違うけれど、社会において「共に生きる」という意識をもつことは、とても大切なことだと考えています。

三並選定委員

開隆堂には他にも「共生」について書かれた箇所があります。開隆堂の240ページをご覧ください。本文の最初に、「持続可能な社会を実現するためには、「人」と「環境」という2つの視点が重要であることを学んできました」と書いてあります。このことは、開隆堂の教科書が大切にしていることだと思います。本市の子どもたちには、是非学んでほしいことです。

阪谷委員

私は本市の重点課題でもある「言語活動の充実」について、気になっています。先ほどの報告にもあったと思うのですが、もう少し詳しく教えていただけませんか。

三並選定委員

言語活動の充実については、やはり、開隆堂260ページから263ページに特長があるといえます。地域の高齢者や幼児、お世話になった人、友人、知人、家族の人たちなどに自分の気持ちを伝える表現方法の1つとして、はがきや封筒の書き方が紹介されています。263ページには、実際に書くスペースも設けられています。

澤田委員

タブレットや携帯電話など、情報機器が普及し、生活が便利になっているのは事実です。メールやラインでのつながりはあるけれど、「人と人とのつながり」という意味で、実際に人とふれあうことや自分の思いや感謝の気持ちを文字にしたためることは大事なことです。

和田教育長

本市が大事にしている「地域や人とのつながり」、「言語活動の充実」という点においても、開隆堂が適当ではないでしょうか。答申の結果を見ましても、はっきりしているようです。

家庭分野は、開隆堂が適当と考えますが、よろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

和田教育長

それでは、技術科・家庭科、家庭分野の教科書として開隆堂を採択いたします。

以上をもちまして、全種目の採択を終了いたしました。

閉 会

和田教育長

以上で平成28年度使用小中学校使用教科用図書採択にかかる臨時教育委員会を閉会します。